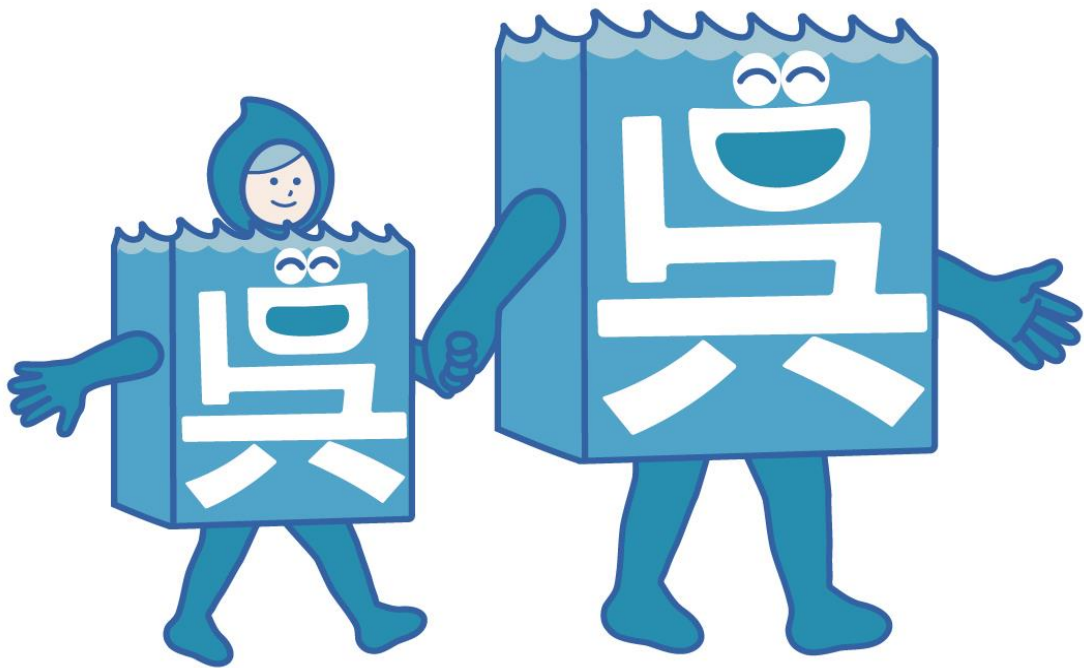


ゆ め づ く い
事 例 集



2024

編集：呉市

「ゆめづくり事例集2024」を作成しました。

それぞれのまちづくり委員会等において，特色ある資源を活かした地域の活性化や，地域の皆さんが抱える課題の解決に向けて，何をしたらいいか，また，どのように工夫すればいいかなど，地域の皆さん自身が考え，行動されている様子を紹介しています。

地域の皆さんの手で育まれ，さらに地域の絆が強まるとともに，より一層，様々な広がりを見せているこれらの事例をご覧ください，自分たちの取組と比べてみたり，新しい取組を考える際のヒントにしたりと，大いに活用していただければと思います。

ゆめづくり事例集2024 目次

No	事業名	団体名
1	2024 第2地区秋のふれあいフェスタ！	第2地区まちづくり委員会
2	第3地区冬まつり	第3地区まちづくり委員会
3	第四地区防災教室～地域・学校・家庭ですすめる防災教室	第四地区まちづくり委員会
4	防災訓練と防災備品整備	第5地区まちづくり委員会
5	荘山田村自然公園プロジェクト	第6地区まちづくり委員会
6	第14回 まるごと・中央地区ウォーキング大会	くれ中央地区まちづくり委員会
7	2024 くれ中央 秋まつり	くれ中央地区まちづくり委員会
8	ふれあいまつり	第8地区まちづくり委員会
9	第8地区とんど祭り	第8地区 まちづくり委員会, 社会福祉協議会, 自治会連合会
10	ふれあい広場三条運営事業（地域活動支援事業）	ふれあい広場三条の会
11	地域住民・両城小学校生徒合同防災訓練	三条地区自主防災会連合会
12	川原石地区夏祭り	川原石地区まちづくり委員会
13	川原石地区合同防災訓練	川原石地区まちづくり委員会
14	吉浦地区はたちの集い	吉浦まちづくり委員会
15	吉浦地区文化祭（秋・展示会）	吉浦文化団体連絡協議会
16	吉川英治文学碑記念祭	警固屋まちづくり協議会
17	警固屋学園防災参観日	警固屋まちづくり協議会
18	農業体験交流事業	警固屋まちづくり協議会
19	阿賀地区合同津波避難訓練	阿賀まちづくり推進協議会, アガデミア
20	令和6年度 阿賀地区「はたちの集い」	阿賀まちづくり推進協議会

No	事業名	団体名
21	阿賀フラワーロード事業	阿賀まちづくり推進協議会
22	第76回 広地区教育祭	広まちづくり推進協議会
23	ひろ「もち」だんらん祭り	広まちづくり推進協議会
24	仁方地区自主防災会合同避難訓練	仁方町まちづくり推進協議会
25	地域交流懇談会	仁方町まちづくり推進協議会
26	宮原ホタルの里開放事業・ホタル育成事業	宮原地区まちづくり推進委員会
27	みんなで防災を考える集いin宮原2024	宮原地区まちづくり推進委員会
28	天応地区夏祭り	天応まちづくり委員会
29	天応地区「はたちの集い」	天応まちづくり委員会
30	こども防災キャンプ	くれ昭和自主防災連合協議会
31	日本フィルハーモニー交響楽団 木管五重奏演奏会	昭和地区まちづくり協議会
32	ふれあい・いきいきサロン	郷原町まちづくり推進委員会
33	郷原町花火大会	郷原町まちづくり推進委員会
34	各種スポーツ大会	郷原町まちづくり推進委員会
35	令和6年度呉市下蒲刈地区はたちの集い	下蒲刈地区自治会連合会
36	2025とんど祭り	下蒲刈地区自治会連合会
37	手作り防災カレンダーを贈ろう	呉市川尻町まちづくり委員会
38	令和6年度川尻地区自主防災総合訓練	川尻地区自治会連合会
39	令和6年度 川尻町はたちの集い	川尻町地区社会福祉協議会
40	2024かわじり元気まつり	川尻町元気まつり実行委員会

No	事業名	団体名
41	「祇園さん」再生プロジェクト	呉市川尻町まちづくり委員会
42	音戸ふれあい朝市	音戸町まちづくり協議会
43	消防車スケッチ大会	音戸町まちづくり協議会
44	音戸町消防大会	音戸町まちづくり協議会
45	音戸フェスティバル&マルシェ（音戸フェスマル）	音戸町まちづくり協議会
46	くらはし観光ボランティアガイドの会ジュニアクラブ養成事業	宝島くらはしまちづくり協議会
47	くらはしお宝朝市	宝島くらはしまちづくり協議会 （お宝朝市部会）
48	宝島くらはしフェスティバル	宝島くらはしまちづくり協議会
49	令和6年度蒲刈地区はたちの集い	蒲刈地区自治会連合会
50	まちづくり情報誌「TANTO」発刊事業	安浦町まちづくり協議会
51	安浦新ええとこ祭り	安浦新ええとこ祭り実行委員会
52	ビューティフルアイランド祭り	豊浜町まちづくり協議会
53	ふれあい事業	豊浜町まちづくり協議会
54	伝統的料理の教室・特産品開発事業	豊浜町まちづくり協議会
55	令和6年度 豊町はたちの集い	豊町まちづくり協議会
56	令和6年度 第17回豊町産業文化祭	豊町まちづくり協議会

※市内で取り組まれたまちづくり活動のうち、代表的な事業56件を紹介しています。

番号	1	団体名	第2地区まちづくり委員会	代表者	城 健康
事業名	2024 第2地区秋のふれあいフェスタ！			事業費	約200,000円
事業の目的	第2地区まちづくり委員会では、人と人とのふれあいを大切にし、活力あるまちづくりに資することを目的として、様々なイベントを実施しています。 その中でも、地区内のビッグイベントとして定着した「みずとひ祭り」は、人々がより参加しやすいように夏季から秋季に開催時期を変更し、「秋のふれあいフェスタ！」として実施しました。 地域内外から多くの人に参加し、人と人とのつながりや新たな交流が広がるよう、常に時代の要請をキャッチして、内容を充実させていくことが必要だと考えています。				
事業概要	日 時：令和6年11月17日（日）9時00分～13時30分 場 所：和庄小学校校庭 内 容：「神楽の舞」（大森神楽団） 「模擬店（カレー、フライドポテト、おでん、うどん等）」 「子どもブース（ストラックアウト、ガチャくじ等）」 「健康相談コーナー」 「大抽選会」 参加者：約300名				
企画・実施した人	企画：第2地区まちづくり委員会 実施：各地区自治会、民生委員・児童委員、女性会、PTA、地域ボランティア				
苦労した点	地域活動の担い手の高齢化により会場準備や後片付けに不安があったが、比較的若い自治会やPTAのメンバーなどの参加でスムーズに行うことができました。				
活動状況	   				
活動の成果	若い自治会員やPTAの役員がイベントスタッフとして参加し、楽しみながらブース運営などにも携わることで、イベント開催におけるノウハウを比較的若い役員たちに継承するきっかけづくりとなりました。				

番号	2	団体名	第3地区まちづくり委員会	代表者	新野 浩一
事業名	第3地区冬まつり			事業費	約200,000円
事業の目的	地域住民と児童が一緒になって防災訓練の準備を行うとともに、本番でその成果を参加者全員で体験することで、安全安心なまちづくりの推進及び公的機関との連携強化による地域力向上を目指しています。 また、地域の伝統文化である「とんど」を通じて、地域住民の絆を深めるとともに、地域への誇りや愛着の醸成を図っています。				
事業概要	平成22年度に30年ぶりに復活を果たした「とんど焼き」を中心とした地域の子どもと大人の交流を図る事業で、ほぼ例年開催されています。この事業は合同防災訓練も兼ねており、多世代間の交流と地域の安全性向上に務めることで、他者への思いやりに富んだ魅力的なまちづくりを推進しています。 授業の一環として本通小学校の児童も事業に取組んでおり、4年生は防災に関する学習成果の発表、6年生はとんどの作成に参加しています。 日 時：令和7年2月2日（日）9時～12時 場 所：本通小学校グラウンド、体育館、ミーティングルーム等 参加者：約420名 合同防災訓練：防災グッズ展示説明、段ボールベッド・仕切りの作成訓練 煙中避難訓練、救急講話				
企画・実施した人	企 画：第3地区まちづくり委員会役員・地域文化の伝承部会 実 施：第3地区自治会連合会・本通小学校・呉市西消防署 自主防災会・民生児童委員・地区老人連合会 地区女性連合会・呉市職員 ほか				
苦労した点	・とんどの材料集め及び設計・製作 ・小学校、消防署及び各種地域団体との調整 ・地域の伝統行事を手伝ってくれる「まちづくり委員会」の後継者不足				
活動状況	 点火前のとんど  段ボールベッド・仕切りの作成訓練  救急講話  防災グッズ展示説明				
活動の成果	当該事業は長年、地域住民にとって恒例行事となっています。また、本通小学校の授業として位置づけられたことで、当該地区のまちづくり計画に掲載している、子どもから大人までの世代間交流が促進され、住民同士の絆をさらに強めることができました。				

番号	3	団体名	第四地区まちづくり委員会	代表者	小林富子
事業名	第四地区防災教室～地域・学校・家庭ですすめる防災教室			事業費	54,011円
事業の目的	南海トラフ地震級の地震にあらかじめ備えるため、学校、児童、保護者、地区住民が一体となって、そのスキルを身につける。				
事業概要	日時：令和7年2月8日（土）午前9時00分～午前11時40分 場所：長迫小学校 内容：(1) 会長、校長あいさつ (2) 防災講和「南海トラフ巨大地震に備えて」 （呉市危機管理課） (3) 感想の発表（児童） (4) 5班に分かれ各ブース体験 ①心肺蘇生 ②煙中体験 ③避難所体験 ④ミニ講習 ⑤消火訓練 ※保護者・地域住民に防災グッズ（アルミブランケット・飲料） 参加人数：長迫小学校児童、教師100名、地区関係者98名、保護者34名、 市・消防 18名				
企画・実施した人	第四地区まちづくり委員会・長迫小学校教員				
苦労した点	初めて生徒だけでなく保護者もあわせての防災訓練だったため人数がよめなかった。 協力してくれた保護者は、自分の児童と同じ班に参加してもらった。 気温への対応に苦労した。防災訓練の内容が毎年同じためマンネリを感じている人達もいた。				
活動状況	 受付  開会式  危機管理課による講話  心肺蘇生  煙中体験  避難所体験  ミニ講習  消火訓練  防災模型の見学				
活動の成果	初めて児童、保護者、地区住民が一体となって学べたこと。 班長を自治会長、副班長に防災リーダーをおき班をつくり、さらに教諭もついてくれたこと。 学校と連携をうまくとれたことにより時間どおりおこなえた。				

番号	4	団体名	第5地区まちづくり委員会	代表者	土本 敏明
事業名	防災訓練と防災備品整備			事業費	約500,000円 (訓練, 備品合計)
事業の目的	第5地区では、平成23年以降毎年、明立小学校、荘山田小学校において合同防災訓練を実施しています。中でも実技体験型防災訓練に重点を置き、各小学校区内の幼稚園から中学生を含め、いざというときに地域が一体となって避難所運営を行えるよう、訓練を実施しました。				
事業概要	地区	荘山田小学校区		明立小学校区	
	日時	令和6年12月13日(金)		令和6年12月19日(木)	
	場所	荘山田小学校		明立小学校	
事業概要	参加者	638人		373人	
	内容	防災講演、炊き出し、煙中体験、水消火器、高齢者疑似体験、車椅子体験、心肺蘇生、救急救命、段ボールベット作成、県消防保安課による地域防災マイタイムラインの作成についての講義、防災グッズ展示、校区内安全マップ展示			
	・防災用品収納倉庫：H23：4か所新設、1か所改修(旧辰川小体育館下倉庫) H24：5か所新設 H25：2か所新設・1か所共用(4自治会は自治会で倉庫を設置済み)、炊き出し用釜2セット購入 H26：炊き出し用釜2セット、大型扇風機10台、発電機2台、会議机29台購入 H27：大型ストーブ4台購入 H28：テント29台購入 H29：リヤカー7台、担架10台、車いす4台、大型扇風機4台購入 R 元：避難所用簡易テント4台、非常食1,000食備蓄 R 2：新型コロナウイルス対策用物品、小型発電機(燃料：ガスボンベ使用) R 3：ソーラーパネル蓄電池4セット、大型扇風機10台、防災用ライト100セット カラーコーン、コーンウェイト100セット、コーンバー60本 R 4：防災用ライト200セット、非常食1,300食備蓄 R 5：非常食1,000食、5年間保存水600本備蓄				
企画・実施した人	主催：各校区の自主防災会連合会 共催：まちづくり委員会・地区社協・地区自治連 協力：呉市(危機管理課・消防署等)、呉市社協、第5地区民児協、女性会、校区内の幼稚園・小・中学校、校区小・中PTA				
苦勞した点	訓練内で、同時に実施するプログラムも多く、スケジュールの管理・把握に苦勞した。また、明立小学校区での訓練中には、消防出動もあり、一時指導者が少なくなるというハプニングもあったが、子どもたちの間で、年長者が年少者に指導するという状況に、継続した取組の良さを痛感した。				
活動状況	   				
活動の成果	幼児期から、地域を挙げた防災訓練への参加を継続、体感させることで、地域防災力の向上に努めるとともに、防災感覚を身につける人材の育成に寄与している。また、日ごろ、あまり関わることがない校区内の児童・生徒が一堂に会することでタテがつながり、これに地域の住民が参加することで「ナナメ」のつながりが生まれ、大変、意義深い防災訓練となっている。				

番号	5	団体名	第6地区まちづくり委員会	代表者	藤本 勝彦
事業名	荘山田村自然公園プロジェクト			事業費	約110,000円
事業の目的	地域の遊休地整備を行い、かつてどこの地域でもあった「里山」の復活を目指すことで、自然の大切さを地域で共有します。地域の宝として整備した自然公園を大切に、子どもたちに自然を感じてもらいながら、世代間交流を図るとともに、地域に愛着を持ってもらうことを目的としています。				
事業概要	環境保全活動や自然体験活動などを通じ、自然とふれあい、その大切さを地域内で共有する取り組みです。昔は田畑があり手入れされていましたが、遊休地となっている土地を、眺望が素晴らしい隠れた地域の名所として復活させるため、150本ほどの数種類の桜を植え、開花時期の違いから四季を通じて桜を楽しめる自然公園として整備しています。 【場 所】 江原地区一体の丘の上 【会 議】 毎月第3木曜日 【現場整備】 毎月第4土曜日午前中 【イベント】 (春) 4月 「春の大なべ汁を食べる会」 → 89名参加 (秋) 11月 「秋のやきいもを食べよう会」 → 44名参加 イベントは、春・秋に毎年開催。 【広 報】 毎月発行する地域コミュニティ紙「今ドキッかわらばん」に掲載				
企画・実施した人	まちづくり委員会内の荘山田村自然公園プロジェクトが中心となって企画立案するとともに、社会福祉法人かしの木や事業に賛同する人たちが協力して作業に当たります。賛同する方々には、ボランティア登録をしてもらい、公園整備に参加してもらっています。				
苦労した点	毎月定期的に会議を行い、作業内容等を確認し公園整備を行っていますが、近年はイノシシによる被害が大きくなっています。また、イベントのときには多くの方に参加いただいておりますが、定例の公園整備の際はボランティアが少なく人員不足であること、スタッフの高齢化、後継者がいないことが課題となっています。				
活動状況	  春の大なべ汁を食べる会 多くの品種の桜の木を見ることができます   スタンプラリー 秋のやきいもを食べよう会				
活動の成果	春・秋のイベントでは、草刈りや清掃活動の後にイノシシ汁ややきいもを振る舞い、子どもも楽しめるようスタンプラリーなどゲーム性を盛り込んだものを企画し、毎年多くの方に参加いただき、地域コミュニティの活性化につながっています。				

番号	6	団体名	くれ中央地区まちづくり委員会	代表者	木村 公一
事業名	第14回 まるごと・中央地区ウォーキング大会			事業費	約30,000円
事業の目的	中央地区は、駅に近いことから、市外へ通勤通学する方が多く、またオフィスビルも多いため、昼間人口と夜間人口の動きが激しくなっています。また、マンションが多く、共働き世帯も多いことから、人のつながりが希薄になっています。 このような中、自治会加入者と未加入者、また地域内に住む方と地域内で働く方など、多くの方が交流し、楽しく健康づくりができるよう、「まるごと・中央地区ウォーキング大会」を実施しています。				
事業概要	日時 令和6年6月15日（土） 午前9時～午後1時 参加者 約80名 内容 健脚コース 約6km 中央公園→蔵本通→大和ミュージアム→二河川公園（折り返し） 二河川沿い→共済病院→中央学園→中央公園（ゴール）				
企画・実施した人	まちづくり委員会内の健康づくり部会（メンバー10人）が中心となって企画立案するとともに、他の4つの部会と民生委員、防犯パトロール隊、保健所職員（健康くれば体操）などが協働して運営に当たりました。				
苦労した点	平成28年より、まるごと中央地区と題して、中央地区を一周するコースを基本に（モデルコース・健脚コース）設定しました。 お年寄りや子どもの参加者が多く、交通量の多いまちなかのコースでの安全確保をしっかりと行うため、防犯パトロール隊を始め、まちづくり委員会メンバーが先導やコース管理などを行い、安心してウォーキングを行うことができるよう注意しました。				
活動状況	 準備運動（健康くれば体操）  市役所前を進行中  中央栈橋に向かって進行中  二河川公園で一休み				
活動の成果	地域住民の健康意識を高めると共に、世代間交流の場にもなりました。				

番号	7	団体名	くれ中央地区まちづくり委員会	代表者	木村 公一
事業名	2024 くれ中央 秋まつり			事業費	約1,000,000円
事業の目的	中央地区には史跡や神社仏閣、伝統行事がないため、地区の祭りがなく、高齢者と若者・子どもの交流が少なくなっています。また、近年マンション等の住民は増えていますが、自治会に加入していない方も多いため、若い世代が地域行事に参加する機会が少なくなっています。 このような中、交流と賑わいの場を創り出すとともに、地域の方の参加意識の向上を目指して、これまで「くれ中央地区夏まつり」を実施していましたが、コロナ感染が拡大し、大規模な開催が難しくなったことがきっかけで、地域の皆様に喜んで参加して頂くイベントを開催しました。				
事業概要	日時：令和6年10月12日（土） 10時～15時 場所：中央公園元噴水広場 内容：ステージプログラム 呉中央中学校吹奏楽部、呉氏と呉氏Jr, Leipupuli'i, センチメンタルシンドローーム, HAPPYFUN, 音戸の舟歌etc., ダンススタジオG-1, 宇都宮黙森生誕二百年祝い隊&YOSAKOI ゲームコーナー お宝つり, たまごくじ, ボールすくい, ミニゲーム など 飲食コーナー 焼きそば, フライドポテト, かき氷, 牛筋煮込み, 飲み物 など 来場者：約2,000名				
企画・実施した人	まちづくり委員会内のコミュニティ推進部会と青少年育成部会が中心となって企画立案するとともに、他の部会と民生委員などが協働して各ブースの設営、運営にあたりました。				
苦労した点	子どもから高齢者の皆さんに楽しいひとときを過ごしていただくことができるよう模擬店やキッチンカーの出店、ステージやゲームコーナーなどに趣向を凝らしました。 準備物も多く、外でのイベントのため雨天場合は、翌日・翌々日の順延を検討しました。				
活動状況	 呉氏と呉氏Jrのダンス  撮影を楽しむ来場者  ゲームを楽しむ子供達  会場の様子				
活動の成果	参加された地域の皆様達の笑顔が溢れ、団体と地域との連携や、世代間交流、地域の団結にもつながり、開催できて本当に良かったです。				

番号	8	団体名	第8地区まちづくり委員会	代表者	大世渡 隆臣
事業名	ふれあいまつり			事業費	約635,000円
事業の目的	「ふれあいまつり」を、第8地区における地域福祉、地域協働のシンボルイベントに位置づけ、地域内外の人々と交流を図る機会とするとともに、イベントをとおして、地域住民の絆を深めることを目的として開催しています。				
事業概要	◇日時：令和6年9月22日（日） 11時00分～14時00分 ◇場所：二河川公園（呉共済病院前） ◇参加人数：約200人 ◇内容：（1）出店コーナー ・たこ焼き ・唐揚げ ・焼き鳥 ・コロッケ ・おはぎ ・おにぎり ・かき氷 ・ビール ・お茶 等 （2）子ども会コーナー ・ヨーヨー釣り ・スーパースクールすくい 等 （3）お楽しみ抽選会				
企画・実施した人	まちづくり委員会，地区社会福祉協議会，自治会連合会，地区民生委員児童委員協議会，青年団，消防団など				
苦労した点	テントの設営・撤去や機材の搬入出などの力仕事に苦労しました。				
活動状況	   				
活動の成果	小さな子どもから大人の方まで，多世代の方々が参加されており，恒例のお祭りを楽しまれました。 地区内のお年寄りから子どもまでが集まり，世代間交流に繋がりました。				

番号	9	団体名	第8地区 まちづくり委員会、 社会福祉協議会、自治会連合会	代表者	大世渡 隆臣 松浦 泰三 大畠 正
事業名	第8地区とんど祭り			事業費	250,000円
事業の 目的	心ふれあうまちづくりの推進のため、まちづくり委員会と地区社会福祉協議会を中心に、地元青年団、消防団などの協力によって、地区内の恒例伝統行事として毎年開催しています。 市中心部では「とんど」を行っているところは少なく、第8地区では、近隣地区からもしめ飾りを燃やしたい人たちを受け入れており、中央地域全体の「とんど祭り」として広がりを見せています。				
事業 概要	◇日時：令和7年1月19日（日） 13時00分点火～ ◇場所：二河川公園、二河川河川敷 ◇参加人数：約300人 ◇内容：とんど（二河川河川敷） ・青年団を中心に、ワラや竹（1.6m）などの材料を調達して、1月12日にとんどの「やぐら」を組みました。 ・会長あいさつの後、その年の干支生まれの人たち（年男年女）によってとんどに点火しました。 ・笹酒（竹筒で温めた酒）で無病息災を祈りました。 ・ぜんざいやお餅を用意し、参加者へ振る舞いました。 ・海外からの留学生や研修生が参加し、自分たちで書いた書き初めをとんどで燃やしたり、笹酒を飲んだりして日本の伝統文化を経験しました。 ・参加した子どもたちにはお菓子の詰め合わせを配りました。				
企画・実 施した人	まちづくり委員会、地区社会福祉協議会、自治会連合会、地区民生委員児童委員協議会、青年団、消防団など				
苦労した 点	とんどの「やぐら」組みや材料の調達など。 特にとんどの「やぐら」組みは、青年団を中心にとんど実施前から多くの時間と人手をかけて組み上げています。				
活動 状況	     				
活動の 成果	今年も多く地域の方が参加し、交流をすることができました。 また、海外から多くの留学生の参加があり、地域との交流を深めました。				

番号	10	団体名	ふれあい広場三条の会	代表者	力安 鈴子
事業名	ふれあい広場三条運営事業（地域活動支援事業）			事業費	約300,000円
事業の目的	誰もが気軽に集える「ふれあい広場」は、三条商店街の空き店舗をふれあい広場三条の会が借り受け、平成24年9月に開設し10年を迎えました。まちづくり委員会が家賃を支出、整備や運営はすべてふれあい広場三条の会のボランティアスタッフが担当する手作りの施設です。 季節毎のイベントも開催され、まちづくり計画に掲げた地域課題を解決するための各事業をこの広場で実施し、「住んでよかった、いつまでも住み続けたい両城・三条地区」にしていきたいと頑張っています。 何よりもボランティアスタッフの皆さんが、いきいきとやりがいを感じ、楽しんで運営されておられます。				
事業概要	場所：呉市三条2丁目15-20「糸きくや」跡の空き店舗 （平成24年9月8日オープン） 活動時間：毎週月曜日～土曜日（日曜・祝日は休所日）10時～16時30分 面積：（間口）3m×（奥行）12m＝約36㎡（約11坪） 家賃 3万円／月 利用料金：無料（お茶無料、コーヒー100円、かき氷100円（夏季限定）で提供） 誰でも無料で利用できる無料休憩所 運営体制：1日3人のボランティアにより運営（合計19人役／週） メンバー：三条まちづくり委員会会員、各自治会関係者、民生児童委員、赤十字奉仕団会員、運動推進委員、一般住民など 利用実績：最近の利用人員 月平均 500人、一日平均 25人 ・平日はお茶やコーヒーをいただきながらの気まぐれおしゃべり会 イベント：4月…お花見会 6月…七夕飾りづくり 7月…夏祭り （例年）10月…ハロウィン 12月…クリスマス会 2月…節分豆まき 3月…震災を忘れないための11コンサート その他、定期的に「うた声広場」、「らくらく体操教室」などを開催				
企画・実施した人	・ふれあい広場三条の会 ・誰でも（特に高齢者）が立ち寄れる場所を切望していた地域の有志数名 ・ふれあい広場を開設するにあたり、「ふれあい広場三条の会」を設立 ・まちづくり委員会から財政支援（家賃と平成25年度限定で空調やパソコン整備）と人的支援を受けています。				
苦労した点	・利用者の増加か事業の多様化に伴い、スペースの手狭感が増えています。 ・常駐するボランティアスタッフの確保（後継者の確保） ・自主財源の確保				
活動状況	 ふれあい広場観桜会  R7.2.1 節分豆まき  第10回ふれあい夏祭り 				
活動の成果	地域の誰もが自由に立ち寄り、交流できる場を提供する目的として会を立ち上げ、今では、高齢者が、地域の中での人とつながり、安心して暮らしていくための「よりどころ」として利用し、特に男性の居場所に活用されている。				

番号	11	団体名	三条地区自主防災会連合会	代表者	山上 文恵
事業名	地域住民・両城小学校生徒合同防災訓練			事業費	132,115円
事業の目的	・毎年、地域住民と小学生と合同で実施することにより、一人ひとりの防災意識を高めると共に、地域住民の絆を強め、共助しやすい街にすることを目的として防災訓練を行っています。 ・急傾斜地を多くかかえるまちだけに、防災をまちづくりの柱の一つに位置づけ、地域のみんなで災害時の対応の問題点を洗い出すことで、より多くの命が助かるよう、住民の危機管理意識を育んでいます。				
事業概要	・日 時：令和6年6月1日（土） 午前9時30分～午前12時 ・参加者：両城小学校生徒及び教諭 150名、地域住民 123名、消防団・市役所 7名の計280名 ・内 容：まず、広島県の職員から「マイタイムライン」のお話をして頂き、その後、縦割り班の8班に分かれ、児童がダンボールベッドを組み立てました。地域の方々は、それぞれのグループの活動を見て頂きました。一部の地域の方々には、ダンボールベッドの「暖段まじきり」の組み立てをして頂き、出来上がったダンボールベッドの周りに立てて頂きました。				
企画・実施した人	三条地区自主防災会連合会				
苦労した点	自治会と学校を中心に広報して、小学生から高齢者まで多くの人に参加してもらっています。				
活動状況	 防災訓練の様子				
活動の成果	小学校が地域の避難所になっており、災害時にはどのように行動していくかなど、地域に住む住民自身が、地域の防災情報を共有して、災害時には慌てず冷静に素早く安全に避難ができるように考えてもらうことが出来ました。				

番号	12	団体名	川原石地区まちづくり委員会	代表者	川畑 勝之
事業名	川原石地区夏祭り			事業費	約450,000円
事業の目的	川原石地区では、地域文化の継承と地域住民の交流や絆づくりのため、平成29年度まで「川原石盆踊り」を実施していました。 その後、豪雨災害やコロナ禍により中止を余儀なくされていましたが、昨年度から「川原石盆踊り」の後継事業として「川原石地区夏祭り」を開催することとし、今年度は、お年寄りから子どもまで楽しめる神楽を鑑賞し、地域住民の交流や絆づくりに取り組みました。				
事業概要	日 時：令和6年8月25日（日） 14時00分～15時30分 場 所：クレイトンベイホテル 参加者数：約130名				
企画・実施した人	川原石地区まちづくり委員会が企画・実施しました。				
苦労した点	川原石地区のスローガンである『住みたい町川原石 私も子供も その孫も』を目指し、多くの地区住民が参加できる魅力あるイベントにするため、どのような内容にするかを時間をかけて話し合いました。				
活動状況	   				
活動の成果	地区内のお年寄りから子どもまで多くの参加があり、地域住民の交流に繋がりました。				

番号	13	団体名	川原石地区まちづくり委員会	代表者	川畑 勝之
事業名	川原石地区合同防災訓練			事業費	約100,000円
事業の目的	川原石地区では、その地形の特性から、土砂災害発生の大危険性があると考え、毎年、土砂災害等に備える活動に取り組んでいます。 今年度は、広島県防災アドバイザーによる「防災より重要！減災とは今すぐできる7つの備え」と題した防災講演と、消防局・消防団による「消火訓練」「煙中体験」「救急法」、呉市危機管理課による「段ボールベットの組立」などの幅広い実技体験を通じて、災害に備える地域住民の意識向上を図る訓練を実施しました。				
事業概要	日時：令和6年11月24日（日） 9時00分～11時30分 場所：二川まちづくりセンター 参加者数：約120名 内容：(1) 防災講演：広島県防災アドバイザーによる防災講話 (2) 実技体験：消火訓練、煙中体験 救急法（心肺蘇生法・AED訓練） 緊急時の生活備品（段ボールベット）の作り方				
企画・実施した人	川原石地区自主防災連合会と川原石地区まちづくり委員会が中心となり、広島県防災アドバイザー、呉市危機管理課、呉市消防局西消防署及び消防団湾岸分団の指導により実施しました。				
苦労した点	実際の災害時に即した訓練にするため、どのような内容にするかを関係機関等と綿密に話し合いました。				
活動状況	 防災講演  消火訓練  救急法  段ボールベット組立				
活動の成果	参加者一人ひとりが自分や家族、地域の方の身を守るための知識や技術を習得するため、真剣に話を聞き、訓練する姿が見られました。 毎年、防災訓練を繰り返し実施することで、防災意識の向上につながっています。				

番号	14	団体名	吉浦まちづくり委員会	代表者	藤岡 豪
事業名	吉浦地区はたちの集い			事業費	約400,000円
事業の目的	はたちを迎えられる新成人の門出を祝う式典，アトラクションを地域みなさんと一緒に開催する。				
事業概要	日時：令和7年1月12日（日） 10時～ 場所：吉浦まちづくりセンター 4階ホール 対象者：令和6年度に20歳を迎える方 内容：（1）式典の部 国歌斉唱，主催者挨拶，来賓祝辞，記念品贈呈，花束贈呈，はたちの誓い，呉市歌斉唱 （2）アトラクションの部 認定こども園落走保育園による和太鼓，歌の披露 思い出の場面スライドショー 吉浦中学校吹奏楽部，呉シティ・ウインド・アンサンブルとの演奏 （3）参加者集合写真（後日全員に送付） （4）はたちの交流会 参加者数：37名（男性20名，女性17名）				
企画・実施した人	吉浦まちづくり委員会				
苦労した点	アトラクションをより効果的にするため，外部団体の協力を得ました。				
活動状況	 認定こども園落走保育園の和太鼓  吉浦中学校，呉シティ・ウインド・アンサンブル  記念撮影（金屏風）  記念撮影				
活動の成果	地域の団体（自治会連合会，女性会，民生委員児童委員協議会）及び認定子ども園・吉浦中学校が力を合わせてはたちの方をお祝いし，はたちの方の地元への愛着を深めることができた。また，地域の活性化を図ることができた。				

番号	15	団体名	吉浦文化団体連絡協議会	代表者	不在
事業名	吉浦地区文化祭（秋・展示会）			事業費	約40,000円
事業の目的	まちづくりセンターを拠点として活動する講座やサークル等の成果を発表することで今後の活動の励みとし、ひいては地域の文化向上に資するため。				
事業概要	日 時：令和6年11月 9日（土）9時～17時 令和6年11月10日（日）9時～15時 場 所：吉浦まちづくりセンター 4階ホール 内 容：吉浦文化団体連絡協議会に属する団体、まちづくりセンターの講座の受講生、地域で活動されている方々の作品を展示 出展者数：17団体（個人） 来場者数：340人 出 展 者：成人書道（講座）・書写水曜日（講座）・女性書道（講座）・水墨画同好会 盆栽同好会・絵手紙（講座）・絵画（個人）・デコパージュ（講座） パッチワーク（サークル）・水彩画（個人2組）・手芸・木工（個人） 吉浦女性会・吉浦スポーツ協会・吉浦中学校・吉浦地区社会福祉協議会				
企画・実施した人	吉浦文化団体連絡協議会（事務局：吉浦まちづくりセンター）				
苦労した点	各団体・個人の展示スペースについて、当初予定を当日変更する団体があり混乱が生じるなどした点。				
活動状況	 女性書道（講座）  水彩画（個人）  絵手紙（講座）				
活動の成果	日頃の活動の成果を披露する場を設けることで今後の活動に向けた節目となった。また、多くの方に鑑賞していただき吉浦町民のふれあいの場となったことで地域の絆づくりの一助となった。				

番号	16	団体名	警固屋まちづくり協議会	代表者	松田満雄
事業名	吉川英治文学碑記念祭			事業費	約35,000円
事業の目的	吉川英治が「新平家物語」を執筆する際、音戸の瀬戸を訪れたことにちなみ設置された「吉川英治文学碑」の設置日である5月3日にイベントを開催することにより、地域住民並びに音戸の瀬戸来訪者に警固屋地区の重要な文化的、観光的資源について再認識してもらうとともに、広く知名度の向上を図る。				
事業概要	日 時：令和6年5月3日（金・祝）10時～11時 事業内容： （1）記念式典 （2）記念碑への献花 参加者数：参加者 20名 運営スタッフ等 20名 合計 40名				
企画・実施した人	警固屋まちづくり協議会				
苦労した点	警固屋地区における恒例行事であるが、大型連休中であるため、参加できる理事が減少してきており、式典行事と献花のみを実施した。				
活動状況	 イベント当日は晴天に恵まれました  記念式典の様子  吉川英治文学碑への献花  式典では読書に親しんだ警固屋学園の児童生徒への表彰が行われました				
活動の成果	行事当日は観光で音戸の瀬戸公園を訪れた観光客も多く、音戸の瀬戸公園並びに吉川英治文学碑の存在を内外にPRすることができた。				

番号	17	団体名	警固屋まちづくり協議会	代表者	松田満雄
事業名	警固屋学園防災参観日			事業費	約50,000円
事業の目的	学校（児童・生徒・教職員），保護者等が，協働的に防災訓練及び緊急車両展示見学等を行うことによって防災意識を高め，自然災害などに備える。 この防災学習等を通して，消防局・警察・行政等の「公助」だけでなく，家族による「自助」（自分の命は自分で守る），警固屋地区の住民による「共助」（共に助け合う）の力を養うことを目的とする。				
事業概要	日 時：令和6年6月8日（土）9時～12時 事業内容：・水消火器体験・煙体験・緊急車両展示見学 参加者数：約100名 （児童・生徒・保護者・消防局・消防団・まちづくり協議会役員）				
企画・実施した人	警固屋まちづくり協議会・警固屋学園				
苦労した点	より多くの人に積極的に防災訓練として水消火器体験や煙体験をしてもらい，また緊急車両展示見学等を通して，いざという時のために目的の「公助」だけでなく，「自助」・「共助」の意識を高めてもらうことに注意をはらった。				
活動状況	 多くの参加者の元，研修が行われました  煙体験  水消火器体験 1  水消火器体験 2				
活動の成果	学校（児童・生徒・教職員），保護者等が，協働的に防災訓練及び緊急車両展示見学等を行うことによって防災に対する意識を高めることができた。				

番号	18	団体名	警固屋まちづくり協議会	代表者	松田満雄
事業名	農業体験交流事業			事業費	約45,000円
事業の目的	警固屋小学校の1年生の児童を対象に、農作業体験や収穫体験をさせるとともに、焼き芋を焼いて子どもたちに食べてもらうことで、地産地消や食育について学ぶ機会を設ける。 また、地域住民にも事業へ参加してもらうことで、子どもたちと地域住民の交流促進を図る。				
事業概要	日 時：令和7年1月21日（火） 9時～11時 場 所：警固屋6丁目11番付近の畑 事業内容： （1）野菜の収穫体験 （2）焼き芋の試食 参加者数：約40名 （1年生児童・教諭・まち協役員・農協職員・地域ボランティア）				
企画・実施した人	警固屋まちづくり協議会 警固屋第11区自治会有志・警固屋小学校				
苦労した点	地域の方々が積極的に参加して運営してくれたため、終始地域の方主導で事業を進めることができた。 畑のお世話は、イノシシ等の鳥獣被害に悩まされながら、年間を通しての気温上昇のため、なかなか野菜が生長しない中、昨年度に続いていつもより遅い時期となってしまった。 しかし、ボランティア精神旺盛な11区自治会有志の方が主になっていただき、警固屋小学校、警固屋まち協の方々から感謝されている。				
活動状況	  児童と地域の方々との交流も深まりました 野菜の収穫体験 1   野菜の収穫体験 2 美味しい焼き芋				
活動の成果	子どもたちと地域の方々が一緒になって農作業体験をすることで、地産地消や食育について学ぶ機会を設けることができた。 また、子どもたちと地域住民の交流促進を図ることができた。				

番号	19	団体名	阿賀まちづくり推進協議会 アガデミア	代表者	加藤 忠二
事業名	阿賀地区合同津波避難訓練			事業費	20,000円
事業の目的	大規模な地震が発生し、津波が到達する状況を想定して、阿賀地域の皆さんに避難先、避難経路等を確認するとともに災害対策の意識を高めてもらうため。				
事業概要	日時：令和6年10月9日（水）14時～15時30分 場所：阿賀地区及び阿賀市民センター 3階ホール スケジュール：13時30分 防災無線、消防広報車等で「訓練予告」放送 14時00分 地震発生想定「訓練開始」（緊急地震速報） 14時05分 津波到来予測想定「避難開始」（津波警報） →『標高10m以上の高台』を目指して避難 防災研修：テーマ「地域住民によるAEDを使った救助方法」 14時40分～15時30分 広島文化学園大学 看護学部の学生（講師）				
企画・実施した人	阿賀まちづくり推進協議会 阿賀学園地域教育連携協議会（アガデミア）				
苦労した点	消防、警察、学校等との調整が苦労した。				
活動状況	避難訓練の様子  防災研修の様子 				
活動の成果	訓練を経験することで、地震・津波等の脅威を認識するとともに、一人ひとりが安全・確実に避難するための避難経路、避難場所、一時避難施設などを確認し、それに伴う心構えと備えについて学べた。				

番号	20	団体名	阿賀まちづくり推進協議会	代表者	加藤 忠二
事業名	令和6年度 阿賀地区「はたちの集い」			事業費	500,000円
事業の目的	阿賀地区在住及び阿賀地区出身の二十歳(はたち)の人を祝うため、記念式典を実施する。				
事業概要	日時：令和7年1月13日(月・祝) 11時～ 場所：阿賀市民センター 3階ホール 内容：記念式典 国歌斉唱 主催者挨拶 はたちの誓い(新成人より男女各1名) 呉市歌斉唱 記念写真撮影(集合写真) 記念演奏会(呉市立呉高等学校吹奏楽部) はたちの同窓会(恩師を囲んで)				
企画・実施した人	阿賀まちづくり推進協議会				
苦労した点	会場設営、市呉吹奏楽部との調整、はたちの同窓会終了時間の大幅な延長。				
活動状況					
活動の成果	記念演奏会(呉市立呉高等学校吹奏楽部)があり式に華を添えた。はたちの同窓会も行われ、恩師の先生ともども楽しい時間を過ごせた。				

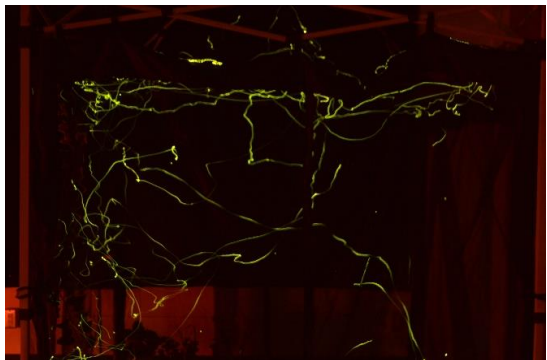
番号	21	団体名	阿賀まちづくり推進協議会	代表者	加藤 忠二
事業名	阿賀フラワーロード事業			事業費	200,000円
事業の目的	阿賀の豊栄地区には、阿賀小学校、阿賀中学校、市立呉高校、呉工業高等専門学校、呉南特別支援学校、広島文化学園大学、呉高等技術専門学校など多くの学校が集中しており、阿賀学園地域教育連携協議会「アガデミア」を構成して学校・地域の連携を図っています。本事業は事業を開始して13年となり、まちづくりの一環として定着しています。アガデミア学校周辺の通学路にフラワーポットを設置し、花いっぱいの道とすることで、子どもたちや地域の人たち、通行する人たちの心を和ませることを目的としています。				
事業概要	令和6年12月12日に広島県立呉南特別支援学校の中学校の生徒の皆さんと地域のボランティアの方で学校横の県道沿いにある「虹の花壇」にパンジー、ビオラ、スーパアリッサムの苗植えを行いました。また、令和7年1月30日には阿賀小学校3年生とボランティアの方でプランターにチューリップなどを植え沿道に設置しました。阿賀中学校、呉市立呉高校、阿賀小学校近くの民間企業の方も同時期に花を設置しました。				
企画・実施した人	阿賀まちづくり推進協議会				
苦労した点	ボランティアの参加者が高齢化により毎年難しくなっている。				
活動状況	 呉南特別支援学校  阿賀小学校       				
活動の成果	学生や車が多く行き交う場所であるため、通行する人が心を和ませており阿賀まちの発展に貢献した。				

番号	22	団体名	広まちづくり推進協議会	代表者	吉井 光廣
事業名	第76回 広地区教育祭			事業費	3,000,000円
事業の目的	広村の先人が遺した旧広村公会堂前（現・広小学校）にある「教育第一」の石碑の精神を受け継ぎ、昭和24年から開催。「学ぶ・創る・楽しむ・夢がひろがる」をスローガンに、世代を問わず、文化行事からスポーツまで地域を挙げて行う伝統行事。				
事業概要	例年、11月のおよそ1か月間をかけて、作品展示や舞台発表、教育功労者表彰式、文化講演会、交流広場などを開催している。				
企画・実施した人	主催：広まちづくり推進協議会 共催：呉市 主管：広地区教育祭実行委員会 後援：呉市教育委員会 ※その他、協力・協賛団体あり				
苦労した点	関係団体との連絡調整、参加者（団体）の事前準備				
活動状況	■教育功労者表彰式 11月23日（祝）広地区の教育文化の向上に寄与した個人・団体を表彰する式典。 ■交流広場では地域の特産品の販売や高校生による大書揮毫などを披露し、多くの方に楽しんでもらった。 				
活動の成果	文化講演会は、地元呉市広出身のお笑い芸人 かが屋の賀屋壮也さんをお迎えして、今までの自分の人生経験と感謝の思いを楽しく伝えていただいた。 また、お母様にもご出演いただき、家族の大切さも多くの来場者に伝わったと思う。 今後は、学生等に物事に対する考え方や活動方法を伝えていき、将来広地区を支えてもらえる人材を育成していく。				

番号	23	団体名	広まちづくり推進協議会	代表者	吉井 光廣
事業名	ひろ「もち」だんらん祭り			事業費	350,000円
事業の目的	日本の伝統文化である餅つきを中心に世代を超えた交流を行うことによって、人と人との繋がりをつくり、後世に伝えることを目的とする。				
事業概要	12月の日曜日に、餅つきや地域の魅力を発信する店舗・キッチンカーなど、広地区を盛り上げてくれるメンバーで開催した。 また、地元ソプラノ歌手によるロビーコンサートも開催し、未就学児はもちろんのこと、多世代が楽しめるイベントとして位置づけている。				
企画・実施した人	主催：広まちづくり推進協議会（Replace・ひろまちdesign factory）				
苦労した点	場所を広市民センター駐車場に変更したため、参加者確保のため多くの方に周知依頼した。				
活動状況	■ 12月15日（日）に広市民センター駐車場において、広町の魅力を多くの方に見てもらい、体験してもらった。 餅つきでは、まちづくり協議会のメンバーと地域の子どもたちが一緒になって「よいしょー」とかけ声をかけながら、お餅をつきました。 地域の魅力発信コーナーでは、地元の食材を使った「ひろバーガー」やみかんの詰め放題など、地元感満載の内容であった。 子どもたちに大人気の呉氏スライダーを設置し、子どもたちはもちろんのこと、国道を走る車の方にもPRすることができた。  				
活動の成果	予想以上に未就学児や小学生が参加してくれた。必然的に保護者の方も参加してくれたため、今後のまちづくりに協力してもらえると感じた。 昨年との変化は、家族が楽しみにしてくれるイベントとなり、昨年以上の盛り上がりを感じた。 また、今年度は地元企業の方と連携して、子どもたちが体験できるコーナーを設置した。 多くのことを体験することによって、子どもたちの将来の夢に繋がればという思いで実施した。 これからは、人と人との繋がりを大切に、広町が中心となり、他ではできないことに取り組んでいけると実感した。				

番号	24	団体名	仁方町まちづくり推進協議会	代表者	谷口 正人
事業名	仁方地区自主防災会合同避難訓練			事業費	172,462円
事業の目的	仁方地区の地域防災避難行動に焦点を当てた実践的な訓練を通じて、一人一人が安全・確実に避難するための避難経路、避難場所、一時避難場所などを確認しながら、防災意識の高揚を図ることを目的とし、11自治会が連携し仁方地区自主防災会合同避難訓練を実施しました。				
事業概要	日時：令和6年6月1日（土） 9時15分～12時00分 場所：仁方小学校（体育館） 内容：①各地区訓練場所の区域内に配置した消防団車両及び消防団員により「避難指示の発令」の広報を実施 ②自治会・自主防災会組織、東消防署、消防団が連携協力して、避難の呼びかけや避難誘導を行いながら、各地区指定場所に集合し、仁方小学校に避難 ③仁方小学校に到着後、東消防署の指導により煙中疑似体験などの訓練を実施 ・煙中体験 スモークマシンによる煙中の疑似体験 ・心肺蘇生法 AED講習 ・消火訓練 消火器の使い方、消火シュミレータによる消火訓練を実施 ・ヘラセオン 暴風雨の疑似体験 ④防災講話 演題 生活防災について「災害からわが身を守るために」 講師 広島県自主防災アドバイザー・防災士 井上重人さん ⑤防災心得 「地域防災タイムライン」について 広島県消防保安課				
企画・実施した人	仁方町まちづくり推進協議会と同地区自主防災会が中心となり企画しました。				
苦労した点	災害時において、どのように対応するか、各地区の実情に即した訓練内容の検討				
活動状況	 心肺蘇生法  消火訓練  ヘラセオン  防災講話				
活動の成果	自治会・自主防災会組織、消防署、消防団が連携協力して、避難の呼びかけや避難誘導を行い、避難経路、避難場所などを確認することにより、防災意識の高揚を図った。また、長年の防災活動が評価され、仁方地区自主防災会連合会が、11月に広島県知事から表彰された。				

番号	25	団体名	仁方町まちづくり推進協議会	代表者	谷口 正人
事業名	地域交流懇談会			事業費	0円
事業の目的	仁方の福祉について、講演、意見交換等を通して、住みよい仁方のまちづくりを考える。				
事業概要	日 時：令和7年1月25日（土） 10時～11時30分 場 所：仁方まちづくりセンター3階ホール テーマ：仁方っていいなあ。そんなまちづくり ～ふれあい・支え合いのまち～ 内 容：①開会式 ②講演 「認知症と共に生きるまち」～認知症パッケージ事業～ 講師：呉市福祉保健部高齢者支援課 地域包括ケアグループ 矢村 里美さん ③質問等 ④閉会式				
企画・実施した人	仁方町まちづくり推進協議会役員が中心となって企画して実施しました。				
苦労した点	・ 地域住民への広報				
活動状況	 講演の様子				
活動の成果	一昨年度から呉市社会福祉協議会や民間の認知症の人への取組を学び、今回は呉市の認知症パッケージ事業について紹介してもらった。活発な質疑応答により、住みよい仁方のまちづくりの取組の一助となった。				

番号	26	団体名	宮原地区まちづくり推進委員会	代表者	阪井 昌行
事業名	宮原ホタルの里開放事業・ホタル育成事業			事業費	80,000円
事業の目的	地域内を流れる神原川のきれいな水を利用し、地域住民によって整備された「宮原ホタルの里」を、ホタルが羽化する6月に一般開放して観賞できるようにするため、維持管理に努めている。また、地区内の小学校で育成方法を学びながらホタルの幼虫を育てる取組や、ホタルの里を宮原地区の宝として広くPRするため、「宮原ホタルん」をイメージキャラクターとした広報活動を行っている。				
事業概要	平成22年に呉市の「まち普請事業」に採択され、平成24年に第一生命と都市緑化機構の「緑の環境デザイン賞 緑化大賞」を受賞し、交付金や助成金を活用して神原公園の隣接地（約600㎡）の整備、神原公園内の小川とホタルの幼虫・メダカなど小生物のすみかとなる池の築造、あじさいの植樹を行うなど、多くの町民ボランティア及び地元の小中学生の協力を得ながら、平成25年3月末に「宮原ホタルの里」を整備した。その後、毎年、地域住民、地元小・中学生と連携し、清掃や観察会等を実施している。令和6年度は、ホタルの幼虫の放流ができなかったため、宮原まちづくりセンターの室内に蚊帳を張り、成虫のホタルを購入して観賞会を開催した。オープニングセレモニーとして、ホタルの放翔等を実施した。 ・ 6月5日 ホタルの里清掃活動 参加者約130人 ・ 6月15・16日 ホタル観賞会 来場者数49人 ・ 7月4日 あじさい剪定 参加者約40人 また、平成29年度に誕生したご当地キャラ「宮原ホタルん」の着ぐるみをリニューアルしたり、グッズを作成して地域に配布したほか、まちづくりセンターでホタルの育成に取り組んでいる。				
企画・実施した人	宮原地区まちづくり推進委員会が中心となって、自治会連合会等の地元団体や学校などの協力を得て行った。 引き続き地元の住民や学校の協力を得ながら管理運営を行う。				
苦労した点	後継者不足のため、ホタルの里の維持管理及びホタルの育成が思うように進んでいない。ホタルの里での観賞会は見合わせざるをえず、ホタルの成虫を購入し、まちづくりセンターの室内に蚊帳をはり実施した。				
活動状況	 ホタルの里清掃活動  ホタル観賞会 ホタルの放翔  ホタル観賞会  リニューアルした宮原ホタルん				
活動の成果	宮原地区において広く活動が周知されている。特に、学校との連携が深まり、清掃活動については、学校主体での実施が定着してきた。				

番号	27	団体名	宮原地区まちづくり推進委員会	代表者	阪井 昌行
事業名	みんなで防災を考える集いin宮原2024			事業費	150,000円
事業の目的	昨年、正月に発生した能登半島地震をはじめ、近年、毎年のように甚大な被害を及ぼす災害が日本国内で起こっている。私たちのまち宮原でもこれまで多く被災している。災害はいつどんな形で起こるかわからない。万一の時に備え、「自分の命は自分で守る」ための防災知識を学んでもらうことにより、多くの住民に防災意識を高めていただく。				
事業概要	日時：令和6年11月30日（土）9時00分～12時00分 場所：宮原中学校体育館 参加人数：約300人 内容：講演 「宮原地区の自然災害から学ぶ！～故・石井俊昭氏の記録から～」 「～能登半島地震の教訓から～今晚かもしれない！ 自分の命を守る」 「地域防災タイムライン」 体験、展示 ・簡易タンカの作り方体験、段ボールベッド体験 ・地震体験、土砂災害模型の実演 ・非常食体験 ・宮原小、坪内小の防災学習展示 ・幼児から学ぶ「ぼうさいダック」展示 ・宮原地区の過去の災害の歴史展示 ・防災焼きいもの配布				
企画・実施した人	宮原地区まちづくり推進委員会、宮原地区自主防災リーダー、宮原中学校生徒				
苦労した点	中学校と連携して行うため、地域と学校との連携・調整を行う必要がある。 万一に備えてみんなに防災について考えてもらうイベントだが、自分のこととしての危機感の醸成が難しい。				
活動状況	 宮原地区の地形の特徴 ・宮内管内に置いた風光明媚で穏やかな風情に恵まれた地区 ・秋山の谷間に切り開いた地形で急傾斜地が多いので土砂災害の発生危険箇所が多い ・道路が狭く車が入れないところが多い ・川は多いが、夏や道路にふさがれて見えない川（暗渠）が多い  講演「宮原の災害の歴史」 簡易タンカの作り方体験   非常食体験 段ボールベッド体験				
活動の成果	地域住民と中学生が共に考えることにより、防災意識が相乗的に向上した。 中学生もスタッフを担い、将来の防災リーダーに向けた自覚が促された。				

番号	28	団体名	天応まちづくり委員会	代表者	友井 輝道
事業名	天応地区夏祭り			事業費	約430,000円
事業の目的	地域の皆さんの熱意で平成23年に復活した「天応町納涼盆踊り大会」であったが、その後の豪雨災害、コロナ禍もあり、中断を余儀なくされていた。心機一転「天応地区夏祭り」と名称を変え、老若男女地域住民が一堂に会し、交流を深めることにより、地域の賑わいを取り戻すため開催することとなった。				
事業概要	日時 令和6年8月10日（土） 17時30分～20時15分 場所 呉ポートピアパーク まちかど広場等 内容 ・キッチンカー10店（たこやき、ホットドッグ、フライドポテト等、ドリンク各種） ・カラオケ大会 ・遊びコーナー（輪投げ・折紙・バッグにお絵描き） ・打ち上げ花火				
企画・実施した人	まちづくり委員会が企画立案し、そのメンバーである民児協、女性会、体育協会、消防団、運推協や呉ポートピアパーク友の会などが協働して、各ブースの設営、運営管理に当たった。				
苦労した点	「盆踊り」をやりたいとの声も一部で上がったが、人的・物的に環境が整わないなか、「夏祭り」を盛り上げるためのイベント企画に苦心した。				
活動状況	 キッチンカー  カラオケ  打ち上げ花火 				
活動の成果	天応町民やお盆に帰省された方など大勢の参加者で賑わい、「夏祭り」を通して町民同士の交流が深まり、地域の連帯感や絆を再確認するとともに、天応町民に癒やしと活気を与える時間となった。				

番号	29	団体名	天応まちづくり委員会	代表者	友井 輝道
事業名	天応地区「はたちの集い」			事業費	約310,000円
事業の目的	二十歳を迎える方を，家族，友人，地域の皆でお祝いし，地域の良さを再認識してもらう機会とすること。				
事業概要	日時：令和7年1月13日（月・成人の日） 10時～ 場所：天応まちづくりセンター 3階ホール 対象者：令和6年度に二十歳を迎える方 内容：（1）はたちの集い（式典） （2）懇親会第1部 ○天応学園生徒有志のソーラン踊り，○恩師と懇談， ○思い出ビデオ上映 （3）懇親会第2部 ○笹酒セレモニー，○ぜんざい餅の振る舞い				
企画・実施した人	天応まちづくり委員会及び二十歳の有志				
苦労した点	以前から「成人式」に合わせて行っていた「笹酒まつり」を，規模を縮小しながらではあるが「笹酒セレモニー」として継続している。しかしながら，年々協力者の高齢化が進み，竹の調達，加工が困難になってきている。				
活動状況	 記念撮影  はたちの誓い  天応学園生徒有志のソーラン踊り  笹酒セレモニー				
活動の成果	天応まちづくり委員会の所属団体メンバーと二十歳の有志が，共に式典の企画・運営を行うことで，地域の子どもの成長を地域全体で祝うことによって，地元への愛着を深め，地域の活性化を図ることができた。				

番号	30	団体名	くれ昭和自主防災連合協議会	代表者	松田 政和
事業名	こども防災キャンプ			事業費	80,000円
事業の目的	小学生に一泊で防災学習や避難生活を体験してもらい、防災意識の向上を図ります。				
事業概要	災害に強い子どもを育てるため、遊びの中で避難所運営・避難所生活を体験してもらい、いざという時の「判断」・「行動」を培いました。 ・開催日 令和6年9月14日（土） ・場所 旧昭和東小学校 ・参加 13名（サポート要員12名）				
企画・実施した人	くれ昭和自主防災連合協議会（事業の企画・広報・調整・実施） 昭和地区まちづくり協議会（事業の広報・申込受付）				
苦労した点	・暑さの残る時期の1泊体験なので、参加者の体調管理に留意しました。 ・防災の学びの中に、楽しさを感じられるよう、工夫を凝らしました。				
活動状況	  ワークショップの様子 展示資料の説明				
活動の成果	参加した小学生には、防災知識の習得はもとより、キャンプを通じて、協調性やリーダーシップの育成を図ることができました。				

番号	31	団体名	昭和地区まちづくり協議会	代表者	梶山 俊二
事業名	日本フィルハーモニー交響楽団 木管五重奏演奏会			事業費	475, 327円
事業の目的	普段接する機会の少ない、交響楽団の演奏会を開催することにより、地域文化の向上・発展を目指します。				
事業概要	在京の日本フィルハーモニー交響楽団から5人の奏者を招き、約1時間30分の木管五重奏公演を行いました。 地域内外から、300人を超える聴衆が集まり、幅広いレパートリーの楽曲を堪能しました。 ・開催日 令和7年2月22日（土） ・場所 昭和まちづくりセンター				
企画・実施した人	昭和地区まちづくり協議会（事業の企画・広報・調整・実施）				
苦労した点	・公演前日の練習会場確保など、事前準備に配慮を要しました。 ・周知広報のための、チラシやポスターの幅広い配布、掲示に意を用いました。				
活動状況	  演奏の様子 公演ポスター				
活動の成果	・プロの素晴らしい演奏を身近で聴くことができました。 ・市外からも多数来場されており、地域を紹介する場となりました。 ・演奏者の中に地元中学校の吹奏楽部出身者がおられ、音楽を愛好する方々の励みとなりました。				

番号	32	団体名	郷原町まちづくり推進委員会	代表者	山本 英則
事業名	ふれあい・いきいきサロン			事業費	150,000円
事業の目的	高齢者が家庭や地域の中で孤立しないように、地域の人たちが定期的にまちづくりセンターに集い、高齢者が健康でいきいきとした生活が送れるよう地域全体で見守り支援する。				
事業概要	平成21年度より70歳以上の高齢者を対象に月に1回、10時～13時に開催 内容：まず、呉市や参加団体のお知らせがあれば、報告する。 （町内の主な団体が参加しており、周知が容易であり、連携もすぐできる。） 次に、誕生日会・健康くれ体操、サロンの歌を、毎回実施する。 その後、講話やステージイベント、各種趣味講座などを楽しむ。 また、コロナ過を経て、昼食会を再開し地域の方々の語らいの場としている。 特徴：地元の団体と連携し実施。 保育所、小中学校や警察・交通安全協会等の協力により講演会や生活安全指導を行う。小中学校は生徒が演奏等を披露するが、参加者もOBのため、最後は校歌を参加者全員で歌い、世代間交流のツールとして盛り上がっている。 参加者は、高齢者は100人であるが、小中学生を合わせると300人が参加する市内最大のサロンとして毎月継続している。				
企画・実施した人	サロン運営委員会（地元自治連、民児協、女性会、運動推進の運営委員と各自治会から推薦された協力員の代表で組織）				
苦労した点	参加者の高齢化と協力員を含む地域リーダーの養成。 コロナ前に比べると参加者が減ってきている。新たな参加者の開拓に各協力員が苦慮した。				
活動状況	 ステージイベント  レクリエーション  交通安全教室  世代交流				
活動の成果	郷原全地区の方々が対象となっていることで、日頃会話をする事のない人たちと交流を深めることができ、おたがいが理解しあい、楽しく、時には体を動かし、生きがいを感じる事ができる憩いの場となっている。また、月に1回の定期開催で集まりやすい環境として、郷原地区の交流の場となり、貴重な時間を過ごしている。				

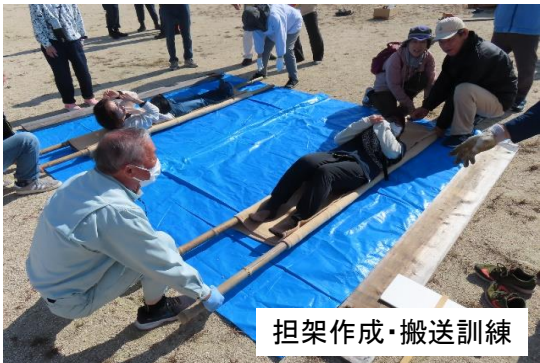
番号	33	団体名	郷原町まちづくり推進委員会	代表者	山本 英則
事業名	郷原町花火大会			事業費	1,000,000円
事業の目的	子どもたちに貴重な夏の思い出を作ってもらうため、「花火大会」を行った。				
事業概要	日時：令和6年8月10日（土） 20時～20時15分 打ち上げ場所：黒瀬川河川防災ステーション周辺 内容：仕掛け花火300連や、大小合わせて約150発の花火を打ち上げ、同時に郷原名物の城山に描かれている「火の用心」のライトアップも行い、郷原町の夜空を彩った。				
企画・実施した人	郷原町まちづくり推進委員会				
苦労した点	駐車場・道路警備員の確保・調整などに苦慮した。				
活動状況					
活動の成果	花火大会を開催することにより、郷原町が活力に溢れ、子どもたちにとっての貴重な夏の思い出と、地域の賑わいを取り戻すことができた。				

番号	34	団体名	郷原町まちづくり推進委員会	代表者	山本 英則
事業名	各種スポーツ大会			事業費	160,000円
事業の目的	郷原地区体協が5つの各種スポーツ大会を開催することによって、郷原町民の健康増進と地域住民同士の交流により親睦を深める。				
事業概要	第26回郷原町グラウンドゴルフ大会（雨天中止） 日時・場所：令和6年6月9日（日） 8時～ ・ グリーンヒル郷原グラウンド 第33回郷原町民卓球大会 日時・場所：令和6年7月14日（日） 9時～ ・ 郷原小学校体育館 第57回郷原町青少年ソフトボール大会 日時・場所：令和6年8月12日（月祝） 8時30分～ ・ グリーンヒル郷原グラウンド 第46回郷原町民ロードレース大会・第39回郷原町駅伝競走大会 日時・場所：令和6年12月7日（土） 8時35分～ ・ 郷原町内				
企画・実施した人	郷原地区体育協会				
苦労した点	郷原町民の人口減少の影響により、参加者集めに苦慮した。				
活動状況	 卓球大会  ソフトボール大会  ロードレース大会  駅伝競走大会				
活動の成果	スポーツを通じて、住民のスポーツへの関心を高め、地域の活性化やスポーツ振興を図ることができた。また、次世代の子どもたちと地域とをつなぐ機会を確保できた。				

番号	35	団体名	下蒲刈地区自治会連合会	代表者	原田 敏信
事業名	令和6年度呉市下蒲刈地区はたちの集い			事業費	70,000円
事業の目的	地域をあげて二十歳を迎えた成人を祝福するため、式典及び祝いの茶会を開催する。				
事業概要	日時：令和7年1月12日（日）13時20分～16時30分 会場：蘭島閣美術館（式典），白雪楼（茶会） はたちの同窓会（下蒲刈市民センター） 内容：式典（はたちの誓い，近況報告） 記念写真撮影（新成人，来賓及び主催者） 茶会（新成人・恩師） はたちの同窓会（新成人，恩師及び保護者）				
企画・実施した人	下蒲刈地区自治会連合会				
苦勞した点					
活動状況	蘭島閣美術館   白雪楼 茶会の様子  				
活動の成果	二十歳を迎えた成人の新たな門出を祝うことができた。				

番号	36	団体名	下蒲刈地区自治会連合会	代表者	原田 敏信
事業名	2025 とんど祭り			事業費	330,000円
事業の目的	伝統文化の継承と地域コミュニティの醸成 過疎化が顕著な地域において、子どもから高齢者まで住民が一堂に会し、みんなで無病息災を願う。				
事業概要	日時：令和7年1月26日（日）10時00分～ 場所：新丸谷港荷上場（三之瀬） 大津会館広場（下島） 大地蔵集会所横グランド（大地蔵） 下蒲刈町内の3自治会がそれぞれの地区でとんどを作り、午前10時各地区一斉に点火する。 来場者には自治会が餅を販売（地元の子ども、70歳以上の高齢者は無料）し、とんどの火で餅を焼き無病息災を願う。また、消化器による消化訓練を実施し、防火の意識を高める。				
企画・実施した人	下蒲刈地区自治会連合会・下蒲刈町まちづくり協議会				
苦労した点					
活動状況	 下島地区  三之瀬地区  大地蔵地区  消火訓練				
活動の成果	子どもから高齢者まで一堂に会し、地域コミュニティの醸成ができた。				

番号	37	団体名	呉市川尻町まちづくり委員会	代表者	土井 敏範
事業名	手作り防災カレンダーを贈ろう			事業費	100,000円
事業の目的	地元の方を講師として招き、絵手紙や防災クイズ、くれ体操、避難所情報などを盛り込んだ手作りの防災カレンダーを川尻中学校1年生全員で作成。 民生委員と共に一人暮らしの高齢者宅を訪問し、手作り防災カレンダーを中学生が直接手渡しする活動を通じて、地域の方々の温かさに触れて郷土愛を高め、災害時における共助の精神を育て、地域貢献への意識を高めることに繋げる。				
事業概要	【令和6年度】 <9月> ・9月10日(火)事業の取組について川尻中学校1年生によるプレゼンテーション ・絵手紙の作成(カレンダー挿絵) <10月～11月> ・10月28日(月)「未来へ繋ぐプロジェクト」(あなたのまちの民生委員さん) ・11月6日(水)親睦グラウンドゴルフ大会(川尻中学校1年生・民生委員児童委員) <12月> ・12月11日(水)民生委員の方と打合せ ・12月13日(金)カレンダー訪問配布				
企画・実施した人	呉市川尻町まちづくり委員会, 呉市第23区民生委員児童委員協議会, 呉市立川尻中学校				
苦労した点	関係団体との連絡調整				
活動状況	 日野先生による絵手紙指導  民生委員と打ち合せ  訪問配布  訪問配布				
活動の成果	2年生から防災カレンダー作りの意義や昨年度の成果と課題について説明を受け、地域の方の役に立ち且つ親しまれるようなカレンダーにしたいという課題を持ち、「役に立つ情報を、分かりやすく、楽しく」を目標にカレンダー作りに取り組んだ。 作成したカレンダーは、川尻中学校1年生と民生委員の方で、キャリアスタートウィークでお世話になる企業や地域の高齢者宅などを訪問し直接配布した。その際、生徒自身が高齢者に温かい言葉をかけ関わろうとする姿が何え、幅広い世代での世代間交流の機会を設けることができた。 また、地域の方からは「いつも楽しみにしているよ。今年もよく来てくれたね、ありがとう」と言葉をかけられ、生徒からは「地域の方々の喜ぶ姿が今まで以上に繋がりを感ずることができ、とても嬉しかった。」「近くに住んでいる地域の人と知り合えて良かった。災害時に活かしたい。」などの感想あった。特に今年度は事前に民生児童委員の方々とグラウンド・ゴルフ等を通じて交流を深めた後、カレンダー配布を行ったので、地域の方々との絆を一層深めることができた。				

番号	38	団体名	川尻地区自治会連合会	代表者	鈴木 信雄
事業名	令和6年度川尻地区総合防災訓練			事業費	80,607円
事業の目的	平成23年3月に発生した東日本大震災、平成30年7月に呉市を襲った豪雨災害の教訓を踏まえ、南海トラフ地震や土砂災害対策として、川尻地区住民を対象に、住民の避難行動に焦点を当てた実践的な訓練を通じて、安全・確実に避難するための避難行動や、負傷者の救護・搬送、避難所生活の運営方法などを確認し、地震及び災害発生時の心構えと備えについて学ぶための訓練を目的とする。				
事業概要	【日時】 令和6年11月10日（日）9時30分～12時 【場所】 川尻グラウンド 【内容】 ・天ぷら油火災実験、通報 ・救出、担架作成・搬送訓練 ・煙中体験、心肺蘇生訓練 ・土のう作成訓練 ・初期消火訓練 ・段ボールベッド・簡易トイレの組立、車いす搬送体験（中学生ボランティア） ・地震体験機の体験（新規） ・地域防災タイムラインの紹介（新規） ・くれ防災つばき会・川尻お尻愛プロジェクトの活動紹介（新規）				
企画・実施した人	呉市川尻地区自治会連合会、川尻町女性会・呉市赤十字奉仕団川尻分団、呉市消防団川尻地区隊、呉市立川尻小学校、呉市立川尻中学校、広島警察署川尻駐在所、呉市東保健センター川尻保健出張所、呉市東消防署川尻出張所、川尻地区防災リーダー、安浦町防災リーダーネットワーク、くれ防災つばき会、川尻お尻愛プロジェクト、危機管理課・県、川尻市民センター				
苦勞した点	日程調整、町民への周知方法（参加者を募るため）				
活動状況	   				
活動の成果	訓練当日は、川尻地区自治会員他、391人が参加した。地元防災リーダー、消防団、呉市消防署川尻出張所の指導のもと、天ぷら油火災実験や初期消火訓練、煙中体験など予定どおりの訓練ができた。また、中学生ボランティアによる段ボールベッド・簡易トイレの作成なども行い、参加者全員で地震及び災害発生時の心構えと備えについて学ぶことができた。				

番号	39	団体名	川尻町地区社会福祉協議会	代表者	土井 敏範
事業名	令和6年度 川尻町はたちの集い			事業費	214,286円
事業の目的	はたち対象者が企画・運営を担い始めて15年目となる「実行委員会」の活動は、地域全体で祝う「はたちの集い」の開催に向けて、実行委員・保護者や女性会などと連携し、一生の思い出となるように準備と当日の運営を行う。 【実行委員会の主な活動内容】 ①懇親会の企画立案 ②会場設営・リハーサル ③当日運営（対象者受付・式典司会・懇親会の司会運営）				
事業概要	【実行委員会】 第1回 8月16日（金） 昨年度のはたちの集いの様子、今後のスケジュール 第2回 11月22日（金） 懇親会企画書の説明、役割分担 準備 1月10日（金） 会場準備・リハーサル 【当日】 1月12日（日） 9時30分～ 打合せ・受付準備（実行委員・女性会・中学生ボランティア） 10時00分～ 受付（実行委員・女性会・中学生ボランティア） 10時30分～ 記念撮影 10時50分～ 式典{主催者挨拶、来賓祝辞、来賓紹介、はたちの誓い} 11時30分～ 懇親会 {先生方エピソードタイム、思い出ムービー、M2ラジオ再来!?!} 12時30分～ 後片付け（全員）				
企画・実施した人	実行委員（前年度対象者・今年度対象者・次年度対象者・今年度対象者保護者・地区社協代表者・市民センター担当者）、女性会、呉市川尻中学校（学生ボランティア）				
苦労した点	実行委員会は対象者の内、中学校当時の生徒会役員を中心に活動を行うが、学生等で市外在住者が多いため、実行委員会結成にあたっての連絡やはたちの集いの企画・準備の調整に時間を要した。				
活動状況	 記念撮影  はたちの誓い  実行委員  懇親会(思い出ムービー)				
活動の成果	当日は対象者54名が参加した。今年度から中学生ボランティアの参加を再開し、5～7年後に開催される自分たちのはたちの集いの参考になるよう当日の運営に協力いただいた。 参加者からは「久しぶりに先生にも会えた。参加して良かった。」などの声があった。また、「はたちの集い」の企画立案や前日及び当日の準備・運営に当該年度実行委員が関わることで、手作り感のある温かい式となった。				

番号	40	団体名	川尻町元気まつり実行委員会	代表者	沖田 徹
事業名	2024かわじり元気まつり			事業費	3,067,166円
事業の目的	「みんなが集い みんなで創り みんなが楽しむ！」を合言葉に、川尻町の魅力を発信し、祭りをとおして地域住民同士の親睦を深め、川尻町地域の活性化に寄与するとともに、代々受け継がれてきた地域文化を後世に伝えることを目指す。				
事業概要	◆日時 令和6年11月17日（日）9時～15時45分 ◆場所 川尻グラウンド 【オープニング】 野呂岩海太鼓（野呂岩海太鼓保存会） 【メインステージ】 ・地元園児，児童生徒によるアトラクション（認定こども園 かがやき・川尻光幼稚園・川尻小学校6年生・川尻中学校吹奏楽部） ・川尻優秀農産物発表 ・ラムネ早飲み大会 ・ものまねLIVEななみななステージ ・ラッキーナンバーゲーム 他 【川尻筆の祭典】 ・筆のパフォーマンス（安田女子大学・竹原高校） ・筆に関する〇×クイズ ・書道家翠蘭や人気講師による川尻筆LIVE 【ダンスステージ】 6グループが出演 【わくわくイベント】 スカイビュー・ちびっこ迷路 他 【食の元気市】 キッチンカーを含む33店舗が出店 【川尻筆コーナー】 伝統工芸士による筆づくり体験・川尻筆の直売 他				
企画・実施した人	川尻町元気まつり実行委員会・川尻町まちづくり委員会・協賛企業				
苦労した点	毎年、マンネリ化しないよう新企画の策定，それに伴う自主財源の確保，来場者の駐車場確保，会場内への誘導等警備，当日スタッフの役割分担など。				
活動状況	 ステージイベント  特設ダンスステージ  食の元気市  「川尻筆コーナー」 伝統工芸士による筆づくり体験				
活動の成果	今後もイベントを継続していくため，新たに事業所へ協賛の依頼を行い多くの賛同と協力を得ることができ，新規協賛企業が24社増えた。 今年は，「呉・大博覧会」事業を含め，呉市から170万円の助成を受けて，「書道」の素晴らしさや，伝統工芸品である「川尻筆」をPRするイベントを企画，来場者は昨年より2,000人も増えて約8,000人が来場し盛大に開催することができた。 書道のパフォーマンスや筆づくり体験は「川尻らしさが出ており大変良かった」など多数の意見をいただいた。				

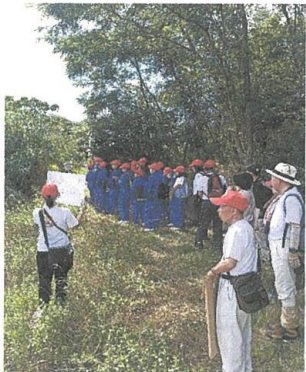
番号	41	団体名	呉市川尻町まちづくり委員会	代表者	土井 敏範
事業名	「祇園さん」再生プロジェクト			事業費	52,000円
事業の目的	桜・ツツジの名所として昔から親しまれてきた祇園公園（祇園さん）。昔はお花見シーズンになると、観光協会の方がぼんぼりを飾り夜間照明が点灯し東部地区の憩いの場となっていた。しかし近年、桜の老朽化やツツジ等の管理がされておらず、荒廃した状態となっている。この現状をまちづくりの一環として長期的に取り組み、祇園公園を憩いの場として再生を図る。				
事業概要	【日時】 令和6年5月19日（日）、令和7年1月26日（日）9時～12時 【場所】 祇園公園 【内容】 ・ツツジや枯れた桜、雑木等の伐採 ・伐採した枝などの運搬 ・前回作業した場所の草刈り ・老人クラブによる炊き出し（5月のみ）				
企画・実施した人	呉市川尻町まちづくり委員会、川尻町観光協会、川尻地区自治会連合会、呉市川尻地区老人クラブ連合会、野呂山観光開発公社				
苦労した点	・住民への事業の周知 ・駐車場の確保				
活動状況	   				
活動の成果	新たなまちづくり普請事業として昨年度から開始。今年度は2回実施し、計86名の参加があり、大きなケガなどはなく、無事に終了することができた。参加者からは「郵便局辺りから作業した場所が見えるようになった」、「昔の公園の姿が戻ってきている」と喜びの声をいただいた。また、「これだけのメンバーが集まるので、今後もみんなで綺麗にしていきたい」など、次回への前向きな意見を多数いただいた。				

番号	42	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	音戸ふれあい朝市			事業費	600,000円
事業の目的	住民同士のふれあいや、三世代（親・子・孫など）が楽しく交流できる場を提供するとともに、町内のにぎわいづくりと地域活性化、地産地消による食の推進を図るため、平成20年10月に第1回目を開催し、以降毎月1回、原則第1土曜日にふれあい広場（おんど観光文化会館うずしお隣接）で開催している。				
事業概要	日時：原則毎月第1土曜日 10時～12時頃 場所：ふれあい広場（おんど観光文化会館うずしお隣接） 内容：新鮮な野菜や、タコ天、炊き込みご飯、細うどんなどの販売や、キッチンカーの誘致の他、プロ野球観戦券などが当たるお楽しみ抽選会や、保育園園児や小中学校児童生徒による歌や踊りなどの披露なども実施している。				
企画・実施した人	音戸町まちづくり協議会				
苦労した点	熱中症対策として、8月は朝市を中止するなどの夏場の暑さ対策に苦慮しており、今後も継続して対策を検討する必要がある。				
活動状況	 野菜販売コーナー陳列状況  野菜販売コーナーに長蛇の列  保育園児の太鼓  交通安全啓発活動				
活動の成果	天候不良による中止もなく順調に朝市の開催をすることができた。保育園児のミニイベント等の際には、家族等の多くの来場者があり賑わいを見せており、地域の活性化に寄与できた。				

番号	43	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	消防車スケッチ大会			事業費	207,000円
事業の目的	次世代を担う子ども達に対し、音戸の瀬戸を背景に消防車両を描き、ビンゴゲームや屋台風模擬店で消防団員と交流することにより、消防に関する興味と関心を持ち、将来は消防団員になりたいと思ってもらえるようなきっかけづくりとし、また、煙中体験をすることで、火災発生時の煙の怖さ・避難の方法を学んでもらうことなどを目的に消防車スケッチ大会を開催した。				
事業概要	日時：令和6年6月16日（日） 9時～12時 場所：音戸市民センター前庭 内容： ◎参加者に画板、画用紙、クレヨンを配布し、名簿に住所、氏名等を記入受付後、随時消防車両のスケッチを開始する ◎模擬店及び消防啓発コーナー 9時40分～11時 ◎ビンゴゲーム大会 11時15分ころ～（現場の状況により前倒しする。） スケッチ終了後、絵を提出し、ビンゴカード、フリーパス券を配布 終了 11時50分 片付け開始 ◎展示・表彰 入選作品を音戸市民センターロビーに展示（8月1日（木）～8月31日（土）） 入選者の表彰を、9月7日（土）朝市会場で行った。 （副賞として朝市商品券等を贈呈）				
企画・実施した人	呉市消防団音戸地区隊・音戸町まちづくり協議会事務局				
苦勞した点	他の事業と並行事務，準備に苦勞した。				
活動状況	 スケッチの様子  煙体験  消防団員とのふれあい  ビンゴゲーム				
活動の成果	多くの参加者があり、消防職員及び消防団員との楽しい時間を共有し交流を深めることができ、併せて消防団の啓発を行うことができた。				

番号	44	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	音戸町消防大会			事業費	208,000円
事業の目的	呉市消防団音戸地区隊の日ごろの訓練の成果を広く市民に披露するため、分団対抗缶打ち競技を実施、併せて同会場において朝市を同時開催し、市民と消防団員、参加スタッフの交流の場を設け、活力のあるまちづくりに資することを目的とする。				
事業概要	日時：令和6年11月3日（日） 9時～11時30分 場所：波多見小学校 内容： ① アトラクション 9時15分～ 波多見小学校、西消防署音戸分署 ② 朝 市 9時30分～ ③ 缶打競技 9時45分～ ・競技方法 旧分団（10分団）対抗によるトーナメント方式（計10試合） ・表 彰 優勝・準優勝・第3位を表彰 ・来 賓 呉市長、呉市消防団長、呉市議会議員、呉警察署音戸分庁舎長、 西消防署音戸分署長、各自治会長、波多見小学校長、音戸中学校長、 なぎさ音戸保育園長				
企画・実施した人	呉市消防団音戸地区隊・音戸町まちづくり協議会事務局				
苦勞した点	会場への物資の搬入搬出				
活動状況	 開会式  アトラクション（波多見小）  缶打ち競技  朝市				
活動の成果	消防団、参加スタッフ、来場者のふれあいにより、相互の交流を深めるとともに、地域の活性化に寄与できた。				

番号	45	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	音戸フェスティバル&マルシェ（音戸フェスマル）			事業費	1,700,000円
事業の目的	音戸フェスティバル&マルシェ（略称『音戸フェスマル』）と題し、著名な建築家隈研吾氏が設計した音戸市民センターを使って、食べる・見る・聞く・遊ぶを誰もが楽しめて、音戸を自慢したくなるものをめざし、文化団体連合会主催の総合展示会と音戸高等学校文化祭とも融合したかたちで開催している。				
事業概要	日時：令和6年11月17日（日） 場所：音戸市民センター周辺 内容： ・ステージ企画 西棟2階ホールに音戸湾内を望むかたちでステージを配置して、音戸清盛太鼓、保育園児の踊りや太鼓、呉氏・呉氏Jrのダンス、「音戸の舟唄」、バンド演奏などを披露し、フィナーレでは抽選会を開催。 ・飲食・販売企画 西棟前庭に、まちづくり協議会構成団体等による模擬店を配置し、2階テラスには、おんど秋のパン祭り（パンの即売）を開催。 東棟駐車場エリアには雑貨販売コーナーや、マツダ車を展示し地域産業のPR、併せて犬猫譲渡会を設け動物との触れ合いの場を設けた。 ・文化祭企画 東棟を活用し、音戸地区文化団体連合会による総合展示会と音戸高等学校文化祭を同時に開催し、音戸の文化の発信とともに、高校生にはこうした経験が音戸での高校生活の貴重なものの一つとなった。 2階ホワイエには、ワークショップを配置し、今回は、1階ロビーにおいて隈研吾氏が設計した音戸市民センターについての説明や写真の展示。 そのほか、子供向けにクイズラリーを行い、同時に、運動普及推進協議会によるウォーキングを行った。				
企画・実施した人	音戸町まちづくり協議会の役員及び事務局 協議会構成団体（自治会、女性会、老人クラブ、民生児童委員、PTA連合会、商工会、音戸高等学校）				
苦労した点	衆議院議員選挙と並行した準備作業に苦労した。				
	 ステージ企画の様様  マルシェエリアの状況  音戸高等学校文化祭  総合展示				
活動の成果	今回は他地区のイベントと開催日が重なり昨年度よりは来場者が減少したが、概ね参加者交流を深めることができ、地域の活性化に寄与できた。				

番号	46	団体名	宝島くらはしまちづくり協議会	代表者	中田 正志
事業名	くらはし観光ボランティアガイドの会ジュニアクラブ養成事業			事業費	60,000円
事業の目的	倉橋町の史跡や名所のガイドができる子どもガイドの育成を図る。				
事業概要	日 時：令和6年7月8日（月） 9時30分～12時 参加者：倉橋中学校1年生16名，担当教員3名， ガイド講師（くらはし観光ボランティアガイドの会会員）6名， 観光振興課2名，計27名 内 容：くらはし観光ボランティアガイドの会ジュニアクラブに入会した倉橋中学校1年生16名が，日本遺産の文化財の「亀ヶ首試射場跡」について2回の事前講義を受けたのち，現地にチャーター船で上陸し，遺跡を見学し，講師から説明を受けた。また，海上から倉橋島の景観を体感し，今回の研修でガイドの基礎となる歴史・文化・伝統・産業の知識を習得した。				
企画・実施した人	くらはし観光ボランティアガイドの会，倉橋中学校				
苦勞した点	特になし				
活動状況	   				
活動の成果	①事前授業や研修体験により，子どもガイドとしての技能や心得を習得した。 ②地域への愛着を育み，郷土に関心を持つきっかけとなった。				

番号	47	団体名	宝島くらはしまちづくり協議会 (お宝朝市部会)	代表者	中田 正志
事業名	くらはしお宝朝市			事業費	120,000円
事業の目的	地元の新鮮で良質な農水産物や倉橋町の特産品を販売することで、地元の農業・漁業・商業の振興を図るとともに、倉橋町の活性化を目的とする。				
事業概要	日時：毎月最終日曜日 8時30分～10時30分頃 場所：倉橋桂浜温泉館 万葉の里駐車場 内容：①地元特産品等の販売 野菜・果物・魚介類・干物・コーヒー・パン・黒ニンニク・発酵食品・炊込みご飯・カレー・山賊焼き・クレープ・焼き菓子・ドライフラワー等 ②お楽しみイベントの実施 お買い物スタンプラリー（毎月） 恐竜じゃんけん（7月、9月、12月） スイカ割り（7月）、魚釣りゲーム・輪投げ（8月） 石地みかんの無料配布（11月、15周年記念イベント） 紅白もちの無料配布（12月、クリスマス年末イベント） もちつき（1月） ぜんざい無料サービス（1月）				
企画・実施した人	お宝朝市部会メンバーや地元の特産品販売店が中心となって企画し、地域おこし協力隊、市職員が協働で実施する。				
苦労した点	集客・PR方法				
活動状況	会場内のようなす 				
活動の成果	倉橋町の新鮮な特産物を販売し、地元や呉市近郊の人に積極的にPRすることにより、地域の交流や賑わいのある場を創出するのに役立った。				

番号	48	団体名	宝島くらはしまちづくり協議会	代表者	中田 正志
事業名	宝島くらはしフェスティバル			事業費	1,311,000
事業の目的	カキやお宝トマトなどの特産品の販売等を行い、広く倉橋町の良さをPRする。				
事業概要	日 時：令和7年2月16日（日） 9時～14時 内 容：焼きカキ、カキめし、お宝トマトなどの倉橋の特産品の販売やステージ発表、餅まき、お楽しみ抽選会、倉橋湾周遊クルーズ、歴史史跡めぐり、絵本会、くらはしカルタ、船上市場、消防署・警察署コーナーなどのイベントを実施。				
企画・実施した人	宝島くらはしフェスティバル実行委員会				
苦勞した点	①ステージへの観客の呼び込みに苦勞した。 ②準備、あとかたづけの人手が足りない。 ③駐車場が少ないため、大渋滞となった。				
活動状況	会場内ようす 				
活動の成果	①特産品の販売等により町外の来場者に倉橋町をPRでき、町の認知度や好意度を高めることができた。 ②町内の出店者に販売の場を提供できて地元経済の活性化に貢献できた。 ③自治会、女性会、商工会などが協力して実施することで地域の連携が深まった。				

番号	49	団体名	蒲刈地区自治会連合会	代表者	梶本 良金
事業名	令和6年度蒲刈地区はたちの集い			事業費	約161,000円
事業の目的	蒲刈地区在住のはたちの方を地域で祝福することにより、成人としての自覚を促し地域貢献の心を養う。				
事業概要	日時 令和7年1月12日（日） 10時～ 場所 蒲刈市民センター2階大会議室 式典 開式の辞、国歌斉唱、主催者挨拶、来賓祝辞、はたちの誓い、記念品贈呈、呉市歌斉唱 記念講演 講師 藤井直子 記念撮影 記念植樹 県民の浜で記念碑を設置し、河津桜を植栽した。 参加人数 新成人3名				
企画・実施した人	蒲刈地区自治会連合会				
苦労した点	記念講演の講師の選定が進まず、なかなか決まらなかった。				
活動状況	 市民センター玄関  式典  記念講演  記念植樹				
活動の成果	地域在住のはたちの方々に地域のみなさんから新たな門出をお祝いしていただくことで、多世代間の交流と地域コミュニティの充実を図ることができた。				

番号	50	団体名	安浦町まちづくり協議会	代表者	山田 賢一
事業名	まちづくり情報誌「TANTO」発刊事業			事業費	530,000円
事業の目的	安浦町のまちづくりに関する情報を町内に周知するため、ボランティアスタッフが自ら取材して原稿を作成し、自治会を通じて各世帯へ情報誌を配布する。				
事業概要	発行月：年4回（6月，9月，12月，3月） 発行部数：5,000部 対象者：安浦町民及び市民センター・まちづくりセンターを訪れる来庁者 内容：（1）まちづくり行事に関する記事 （2）まちづくりに関わる人物・団体等の紹介 （3）史跡や文化等に関する記事 （4）店舗・会社等（まち協構成団体に所属する会員）の紹介 等				
企画・実施した人	広報部会会員				
苦労した点	記事がマンネリ化しないよう常に新しいテーマを探す必要がある。また、会員の高齢化が進みつつあるが、新しいスタッフがなかなか確保できない。				
活動状況	    58号（令和6年春）     60号（令和6年秋） 59号（令和6年夏） 61号（令和6年冬）				
活動の成果	自治会を通じて各戸配布することにより、まちづくりに興味の無い人であっても、町内で行われている行事や人物のことを知る手段となり、まちづくりの現状や楽しさを知っていただくとともに、何かの拍子に参加したり、協力したりする切っ掛けとなっている。				

番号	51	団体名	安浦新ええとこ祭り実行委員会	代表者	上田 靖
事業名	安浦新ええとこ祭り			事業費	約2,500,000円
事業の目的	町の内外から多くの来場者を呼び込み賑わいを創出する				
事業概要	野外ステージの演舞演奏を中心に、飲食・物販・体験コーナーが会場内に並び、町の内外から多くの来場者を集めて交流を図る安浦町最大の地域交流イベント。 日 時：令和6年12月1日(日) 場 所：安浦中学校グラウンド及び体育館、安浦武道場、安浦市民センター駐車場 来場者：延べ6,500人 内 容：(1) 屋外ステージ発表 出演者：地元ゆかりの団体／司会：松本裕見子さん（タレント） (2) 飲食ブース 焼き牡蠣、地酒、軽食、菓子、キッチンカー等 (3) 物販ブース 牡蠣むき身、野菜、菓子、地酒、陶芸・手芸品、車両、ガス器具等 (4) 体験ブース 健康、防災、吹矢、ゲーム、お化け屋敷、パトカー・消防車等				
企画・実施した人	安浦新ええとこ祭り実行委員会（町内の公益団体等で構成）				
苦労した点	来場者の大幅増を見越し十分な広さの臨時駐車場を確保し、シャトルバスも用意したが、会場から近いところに駐めたい人が近隣へ無断駐車し迷惑をかけた。またスタッフの高齢化による準備や片付けに要する人役の確保や采配に苦労した。				
活動状況	 市長挨拶  ステージ風景  体験コーナー  もちまき				
活動の成果	呉大博覧会に参加し、広報も紙媒体に加えSNSを中心に強化したことで多くの来場者に訪れていただいた。また、地元中学生やそのOBも参加してくれるようになり、運営側としても高齢化の流れの中に一筋の光明が見えてきた。				

番号	52	団体名	豊浜町まちづくり協議会	代表者	伊藤 圭一
事業名	ビューティフルアイランド祭り			事業費	1,051,794
事業の目的	だれもが健康でいきいきと暮らすことのできる健康づくりや世代間交流を目的として、子供から高齢者まで気軽に参加できる「ウォーキング大会」を中心に開催します。 町外の方にも広く参加を呼びかけ、祭りに参加していただくことで豊浜町の良さ（島の香り・味・自然）のPRを行うことを目的とします。				
事業概要	子供から高齢者までが気楽に参加できる「ウォーキング大会」や「体力測定」のほか、各種団体の模擬店や特産品の販売、防災・防犯コーナーなどを設け行います。また、特設ステージ等では文化団体の成果発表や音楽グループ等の演奏が行われます。各種団体の協力のもと、笑顔あふれるイベントを実施します。 【日時・場所】 令和6年10月19日（土）親水公園・豊浜中学校・豊浜まちづくりセンター 【内容】 ウォーキング大会など野外のイベントは雨天のため中止となり、体育館で健康相談・フッ素健康チェック、サロン・中小学生・保育園の作品展示及びケチケチバザーを開催した。豊浜まちづくりセンターでうどん・しば餅を販売した。 【参加予定者】 ウォーキング大会 2km（70名）・4km（41名）				
企画・実施した人	豊浜町まちづくり協議会				
苦労した点	準備、片付けにたくさんの協力者が必要なこと。 悪天候で用意した材料などが無駄になった。 中止までの判断に時間がかかった。				
活動状況	健康相談等  ケチケチバザー  作品紹介  露店（昼食会場） 				
活動の成果	悪天候で野外のイベントが初めて中止となり、今後の悪天候時のイベント活動のやり方を検討することができた。				

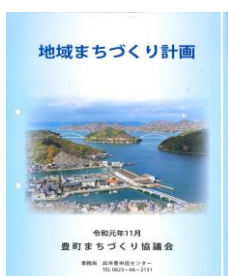
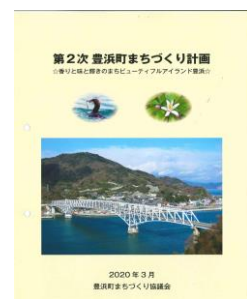
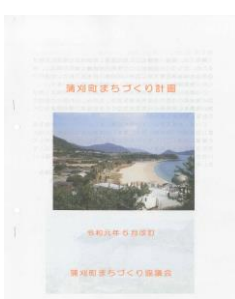
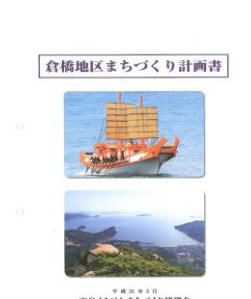
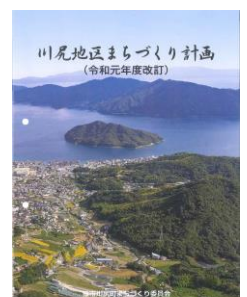
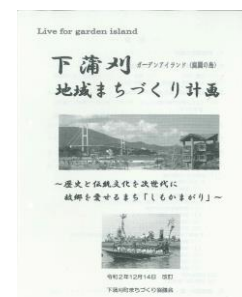
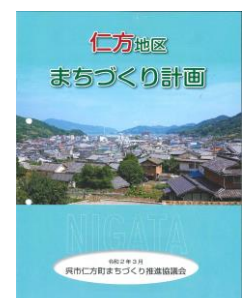
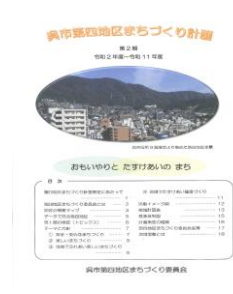
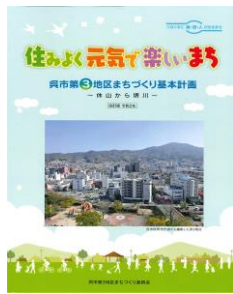
番号	53	団体名	豊浜町まちづくり協議会	代表者	伊藤 圭一
事業名	ふれあい事業			事業費	67,269円
事業の目的	地元高齢者が広島国際大学とコミュニケーションを持つことで、自分自身の健康状態を把握し、健康に関する知識を高め、いきいきと安心して生活を送ることを目的とします。				
事業概要	広島国際大学と昭和サロン等でグランドゴルフ大会を通じて交流会を行いました。競技に入る前に健康チェック・ラジオ体操を行い、体調に気をつけながら競技を行いました。ルールをサロンの方が丁寧に教えながら楽しい日々を過ごしました。 2回目は、握力計や健康チェック等、健康学習、健康体操を行うとともに、学生たちと地元高齢者で豊浜町や日頃の生活などを和気藹々と交流を行いました。 第15回瀬戸内イキイキプロジェクト 開催日：令和6年11月4日（月） 参加人数：町内サロン15名、広島国際大学19名 交流内容：血圧・脈拍測定、グランドゴルフ大会 第16回瀬戸内イキイキプロジェクト 開催日：令和7年2月15日（土） 参加人数：町内サロン29名、広島国際大学12名 健康学習：緊急時に備えよう！～災害食・緊急医療情報キット～				
企画・実施した人	豊浜町まちづくり協議会 豊浜町各サロン 豊浜町老人クラブ 広島国際大学				
苦労した点	前々日の大雨でグランド状況の確認など、天候に左右されるところ。 寒くなると高齢者の参加が少なくなること。				
活動状況	第15回瀬戸内イキイキプロジェクト   第16回瀬戸内イキイキプロジェクト  				
活動の成果	グランドゴルフ大会は、学生たちにルールなど教えながら楽しく交流できたこと。高齢者の方も若い学生との交流で元気がでたなどの意見があった。緊急医療情報の見直しをしていくよう意識確認ができた。				

番号	54	団体名	豊浜町まちづくり協議会	代表者	伊藤 圭一
事業名	伝統的料理の教室・特産品開発事業			事業費	30,132
事業の目的	豊浜町の伝統的料理のレシピ本から抜粋した料理を若い世代に継承して伝統の味を守っていく。				
事業概要	豊浜町の伝統的料理を次の世代に継承していくため、地元住民の協力で巻き寿司、ひじき、アスパラ肉巻き、豊島ラーメンの伝統的料理及び特産品を利用した料理を学び、豊浜町の味などの伝統を守っていく。 開催日：令和6年12月20日（金） 参加人数：6名（豊浜中2年生）				
企画・実施した人	豊浜町まちづくり協議会 ワーキンググループ 豊浜町地域住民				
苦労した点	あなごなどの海産物が地元産でとれなくなっていること。 物価が上昇している。 教えてくれる地域住民の高齢化が進んでいるため、後継者がいない。				
活動状況	伝統的料理教室 				
活動の成果	豊浜町の伝統的料理を次の世代に継承する事ができた。 学生にとっては、料理を通じて地域住民とふれあいができ、良い体験になった。				

番号	55	団体名	豊町まちづくり協議会	代表者	本末 満
事業名	令和6年度 豊町はたちの集い			事業費	170,000円
事業の目的	豊町在住または豊町出身の若者たちを対象として、新たにはたちの門出を祝うとともに、記念式典及びアトラクション等を実施し、ふるさと豊町を再認識してもらう。				
事業概要	日 時：令和6年8月14日（水）10時～ 会 場：安芸灘交流館 堀ばたホール 内 容：1 式典（式辞，来賓祝辞，記念品贈呈，新はたち答辞等） 2 アトラクション（新はたちによる巻きわら謝礼） 3 記念演奏会 天笠－AMAGASA－ 4 記念撮影				
企画・実施した人	豊町地区社会福祉協議会，豊町まちづくり協議会，共催呉市				
苦労した点	新はたちを祝うため，記念品やアトラクション等，喜んでもらえるよう工夫した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら，家族や地域の人たちにも参加してもらえるよう広報に努めた。				
活動状況	 祝 豊町はたちの集い 令和6年8月14日 安芸灘交流館 会長式辞 新はたち答辞 巻きわら射礼 記念演奏会 天笠-AMAGASA-				
活動の成果	地元開催することで，豊町出身の新はたちの門出を祝い励ますとともに，ふるさと豊町に愛着を持ってもらうことができた。				

番号	56	団体名	豊町まちづくり協議会	代表者	本末 満
事業名	令和6年度 第17回豊町産業文化祭			事業費	1,600,000円
事業の目的	出店や作品展示、ステージ発表等により、事業者、町民一体となって、豊町に「にぎわい」を取り戻すイベントを実施する。				
事業概要	日 時：令和7年2月8日（土）9時～ 会 場：安芸灘交流館（豊まちづくりセンター） 内 容：○産業部門～町内外から出店が集まり、ビンゴゲームなどのアトラクションでイベントを盛り上げている。 ○文化部門～講座や町内のカルチャークラブによるステージ発表と小中学校等を加えた作品展示を行った。 動員数：約800人				
企画・実施した人	主催：豊町産業文化祭実行委員会（豊町まちづくり協議会，豊町地区社会福祉協議会） 共催：呉市				
苦労した点	呉大博覧会と銘打ったことから、出店者及び出展者の参加調整を行ったことと、当日、多くの参加者が集まるよう、町内及び安芸灘4島他、町外にも広報チラシを配布し広報に努めた。				
活動状況	 開会式にて 屋台のようす RCC 瀬上沙紀さんのステージ 作品展示のようす				
活動の成果	昨年同様、たくさんの来場者があり賑わいをみせていた。町内で行う唯一のイベントであるが、活気ある文化祭にすることができた。				

(参考) 地域まちづくり計画



地域の共有する夢（地域の将来像、地域課題の克服等）の実現に向け、おおむね5～10年間で取り組むべき地域の構想で、地域住民の総意に基づいて住民自身（まちづくり委員会）が策定したものです。
この計画に基づき、地域自らが主体となったまちづくりが進められています。



ゆめづくり事例集2024

発行：令和7(2025)年3月

編集：呉市市民部地域協働課
各市民センター

